



BET モジュール1

生態系サービスとビジネスの関係性の理解

メインプレゼンテーション

英語版 2012年2月(日本語訳版 2012年7月) 発行



BET 日本語訳版の発行にあたって

ビジネス エコシステムズ トレーニング (BET) の開発の構想が2011年4月にWBCSDから発案されて以来、日立製作所はWBCSDのメンバー企業として、また、生態系フォーカスエリアの共同議長の役割を果たすべく、BETの開発にアドバイザー委員会(Advisory Committee)のメンバーとして参画して参りました。この度、BETの日本語訳版を発行することに携わる機会を得てBETの日本語版の発行に至りました。日本の企業の皆様や生態系保全への知識の幅をさらに広げたいと願う多くの方々に、幅広くご活用頂ければ幸いです。

BETでは、生態系保全と企業とのかかわり方をいかに本業の中に組み込んで戦略化させていくかを考える為に必要な多くの知識や考え方が紹介されています。教材は4つのモジュールから構成され、各モジュールの講義形式での実施時間は4時間と充実した内容となっております。全部または一部を、各社や教育機関等でご活用される方が増えることを、期待しています。

(株)日立製作所
地球環境戦略室



ビジネス エコシステムズ トレーニング (BET) – 関わった組織

すべての内容は、WBCSD資料および公的に入手可能な報告書に基づいています。

BETのカリキュラムおよび構成は、により作成されました。

BETの構成および内容の開発は、WBCSDメンバー企業、リージョナル・ネットワーク・パートナー、NGO、国連、および学術機関から構成されるアドバイザリー委員会(Advisory Committee)により監修されました。



第1章 導入

モジュール1：生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

導入

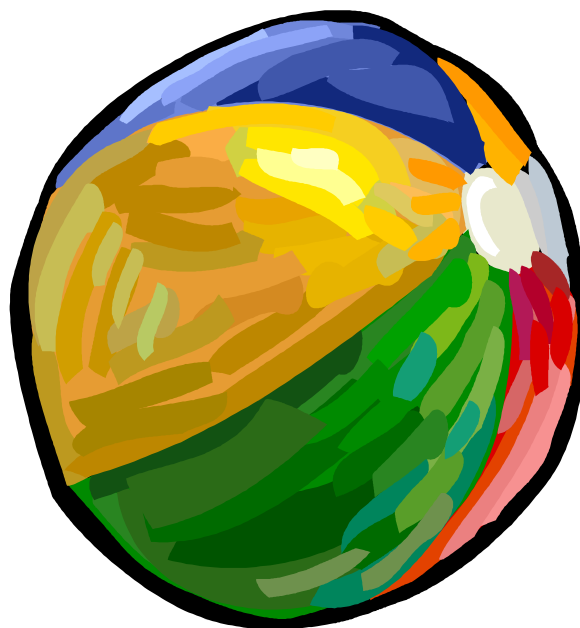
- a) 現在のあなた(受講者)の仕事上の役割、任務、役職
- b) 生態系に関する知識
- c) このコースおよびモジュール1で学びたいこと



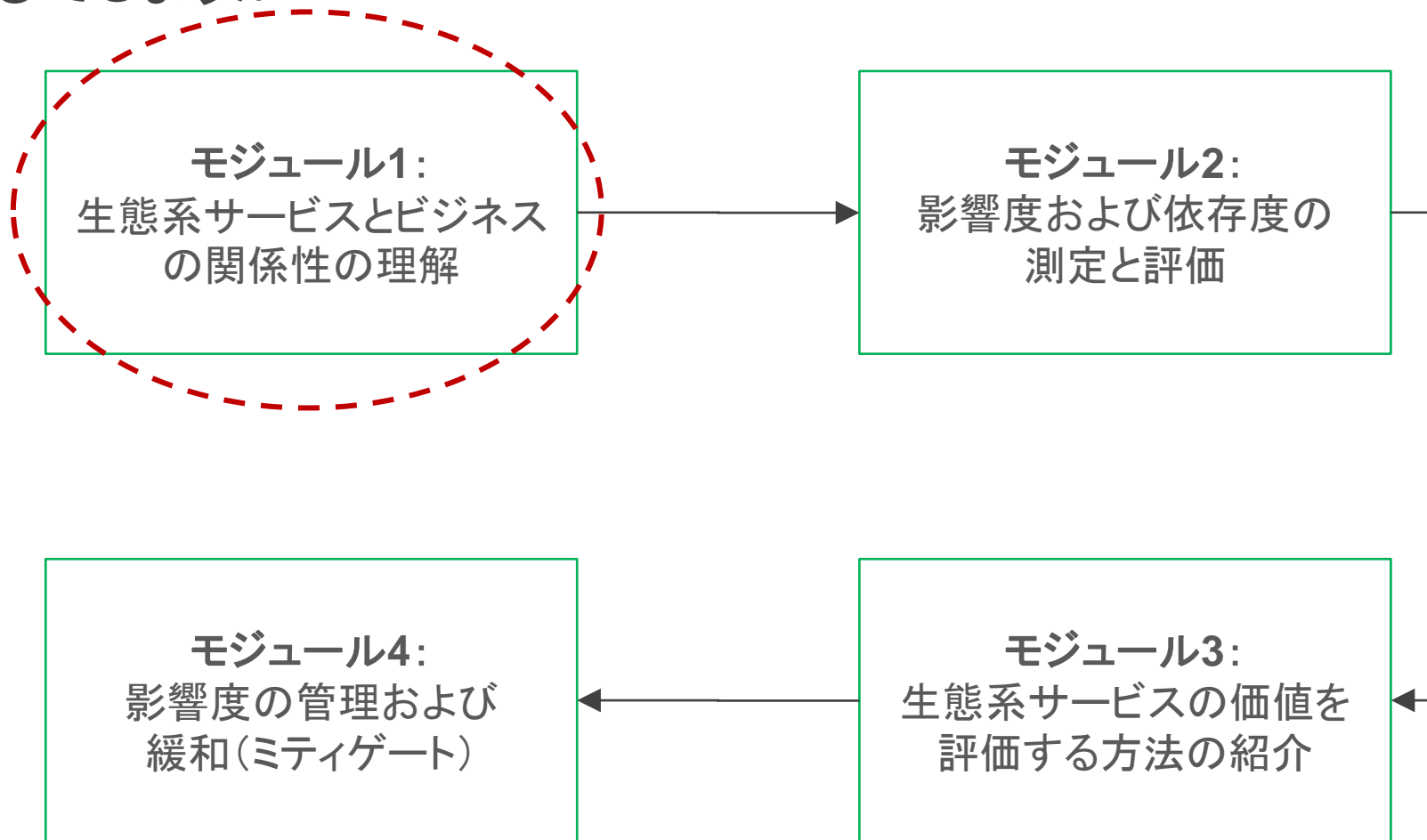
5分間



キャッチボールで自己紹介しましょう！



モジュール1は、研修全体の中でどういう位置づけになっているのでしょうか？



モジュール1の目的

- ❖ 生物多様性、生態系、生態系サービス、環境、および持続可能性を中心にした主要な用語およびコンセプトについての理解度を促すべく明確に説明。
- ❖ 生物多様性および生態系の変化と影響度の直接および間接的な要因と原因、生態系サービスに対する企業の影響度と依存度を明確化。
- ❖ 生態系サービスと幅広い持続可能性の課題の関係性について理解の促進。
- ❖ リスクとチャンスの両方の視点から、生態系を管理するためのビジネス事例について説明し、自社にとっての特定のビジネス事例を明確化。
- ❖ 現在(生態系の)変化の主要な要因とされている規制と方針の基本的な枠組みの一部について理解を深める(モジュール4で詳細に説明)。
- ❖ 研修受講者が組織の値を向上させために役立つ知識を獲得できるようにする。



モジュール1まとめーチェックポイント

- ✧ 基本事項の理解
- ✧ 変化の要因、ビジネスの影響度と依存度
- ✧ 持続可能性との関係
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 政策と規制の枠組み
- ✧ 有益な知識の獲得



モジュール1—課題

時間	所要時間(分)	章	講師
	45	導入	
	30~35	生物多様性、生態系、および生態系サービス—基本事項	
	10	政策動向の紹介	
	30	主要な生態系サービスの明確化—研修課題(アクティビティ)	
	10~25	休憩	
	25~30	グローバルな生態系の課題	
	25	ケース・スタディーとエクササイズ	
	10	認知度チェック	
	10	おさらい—行動のためのビジネス事例	
	5	可能な行動	
	30	ビジネス事例に基づいたブレインストーミング—研修課題(アクティビティ)	
	20	まとめ	



**Nature is
DISAPPEARING.**

<https://www.youtube.com/embed/TartoYpK1yI>

**"What is nature worth?"
「自然の価値とは？」**

出典: University of Minnesota, Institute on the Environment



wbcasd business ecosystems training

英語版 2012年2月
(日本語訳版 2012年7月)

持続可能な発展(サステナブル・デベロプメント) についての紹介

ブルントラントの定義、報告書『地球の未来を守るために』(国連「環境と開発に関する世界委員会」(WCED)1987)から

“Sustainable development is development that meets the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs.”

「持続可能な発展とは、将来の世代がニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たす発展のこと。」

企業の持続可能性

“Managing resources to ensure that a business can survive and maintains conditions under which it can produce goods and services and exist in harmony with nature. It is therefore important to ensure that a business has knowledge of its dependencies on both ecology and society.”

「製品およびサービスを生産しながら、自然と調和して存在できるような状態で企業が生き残り、その状態を維持できるように資源を管理すること。したがって、企業は生態学と社会の両方に依存しているという認識を持つことが重要。」

ミレニアム開発目標

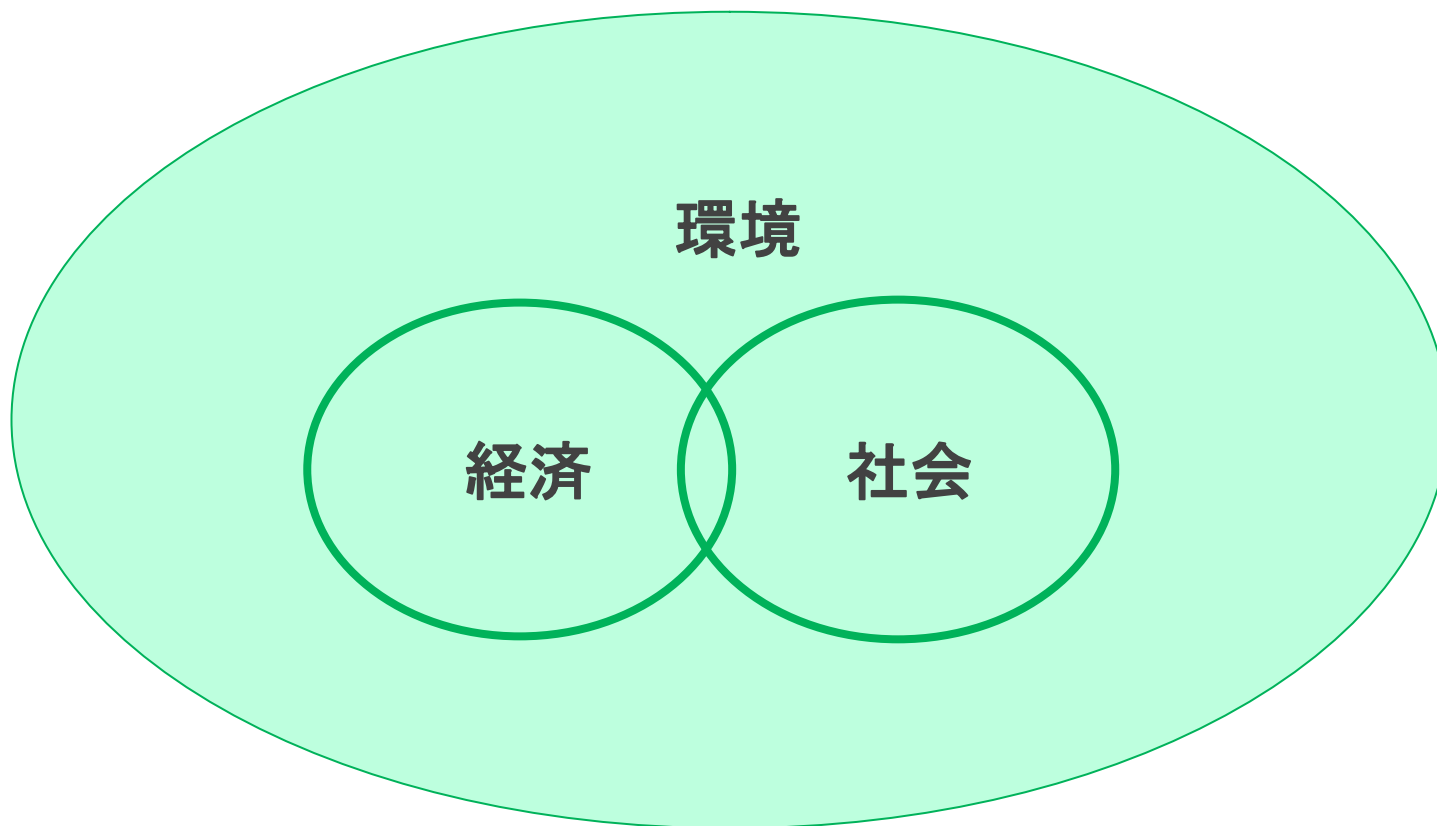
Eradicate Extreme Poverty and Hunger; Achieve Universal Primary Education; Promote Gender Equality and Empower Women; Reduce Child Mortality; Improve Maternal Health; Combat HIV/AIDS, Malaria and Other Diseases; Ensure Environmental Sustainability; and Develop a Global Partnership for Development.

極度の貧困と飢餓の撲滅、初等教育の完全普及の達成、ジェンダー平等推進と女性の地位向上、乳幼児死亡率の削減、妊産婦の健康の改善、HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止、環境の持続可能性確保、開発のためのグローバルなパートナーシップの推進。

出典：
<http://www.un-documents.net/ocf-02.htm#l>
<http://www.un.org/millenniumgoals/bkgd.shtml>



持續可能性



この課題についての各企業の対応をみてみましょう。

Unilever:

“By 2020 we will source 100% of our agricultural raw materials sustainably.”

「2020年までに、農産物の原料を100%持続可能に調達します。」

出典: <http://www.unilever.com/sustainability/environment/agriculture/index.aspx>

Holcim:

“Our commitment is to continuously improve our environmental performance and provide positive contributions to our business and to society.”

「弊社の取り組みは環境パフォーマンスを絶えず改善し弊社のビジネスと社会に積極的に貢献することです。」

出典: <http://www.holcim.com/fileadmin/templates/CORP/doc/SD/envPolicywebversion.pdf>

Walmart:

“Walmart de México to reduce water use by 20 percent by 2013 (2008 Baseline)”

「Walmart de Méxicoは、2013年までに水の使用量を20%削減します(2008年を基準)。」

出典: <http://walmartstores.com/download/4887.pdf>

Kimberly-Clark:

“25 percent reduction in manufacturing water use by 2015”

「2015年までに製造に使用する水の量を25%削減」

出典: http://www.cms.kimberly-clark.com/UmbracoImages/UmbracoFileMedia/2010SustainabilityReport_umbracoFile.pdf



第2章

生物多様性、生態系、および生態系サービス—基本事項

モジュール1：生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcSD business ecosystems training

基本コンセプト

生物多様性とは、



や



や



だけでなく、



にもかかわっています



定義

生物多様性

The variability among living organisms within species and ecosystems.

種および生態系内の生物の多様性

生態系

A dynamic complex of plant, animal, and micro-organism communities and the non-living environment.

植物群集、動物群集、および微生物群集と非生物環境との動的な複合体

生態系サービス

The benefits that people obtain from ecosystems – the goods and services of nature.

生態系から人が受ける恩恵—自然から生み出される製品およびサービス

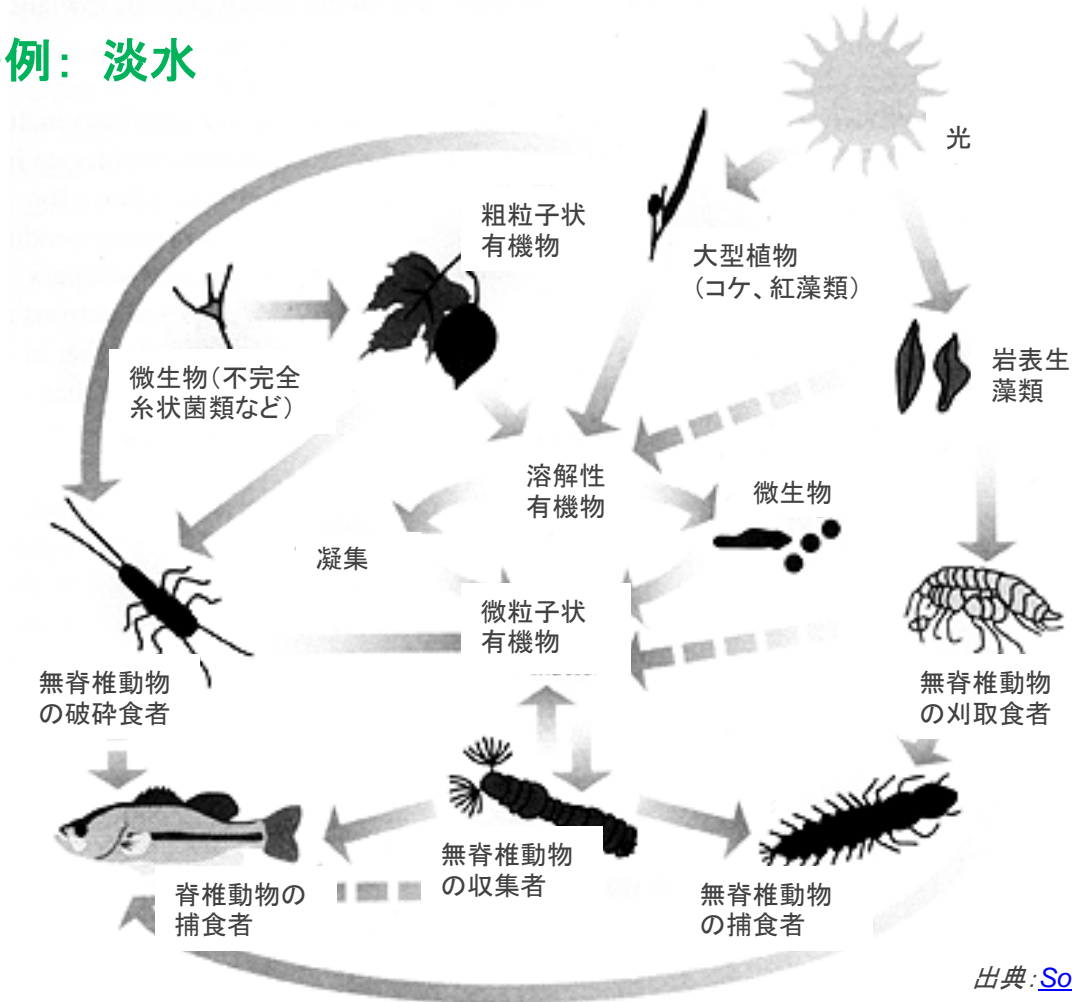
出典: WBCSDレポート『Connecting the dots』(同資料のスライド9)およびWBCSD.2008.『Corporate Ecosystem Services Review』(HP掲載資料)(2011年8月2日時点の情報)

参照先: http://www.wbcsd.org/DocRoot/R3HpfX53CixLEiQsBRpJ/Corporate_Ecosystem_Services_Review.pdf



基本コンセプト(続き)

生態系の例: 淡水



出典: [Society for freshwater science](#)



コンセプト

- ❖ **生態系への依存度:**「良い業績を収めるために必要な環境の状態」
例: 農業はミツバチなど植物の花粉を媒介する種に依存しています。
- ❖ **生態系への影響度:**「企業は生態系サービスの量または質に影響を与えます」
例: 鉱業は採掘場所が占める土地に存在する生態系に影響を与えます。
- ❖ **生態系の優先順位:**「会社が大きく依存しているか、大きな影響を与えているサービス」
例: 製紙業は製品用の木材を調達することにより森林に影響を与えます。
- ❖ **要因:**「自然的または人為的にかかわらず、生態系および生態系サービスを提供する能力に変化を起こす要因」
- ❖ **資源の不足:**生態系による有益な資源の産出が減少するため、資源に依存する人および産業を圧迫します。

出典: WBCSDレポート『Connecting the dots』(スライド9)およびWBCSD.2008.『Corporate Ecosystem Services Review』(オンライン)
(2011年8月2日アクセス済み)。

参照先: http://www.wbcsd.org/DocRoot/R3HpfX53CixLEiQsBRpJ/Corporate_Ecosystem_Services_Review.pdf



生態系サービス—概要

供給サービス

生態系によって生み出される物や製品



調節サービス

生態系によって調節される自然作用



文化的サービス

生態系からもたらされる無形の恩恵



支援サービス

他のすべてのサービスを維持する機能

『ミレニアム生態系評価』(2005年発行)に記載。



供給サービス:

生態系によって生み出される、または提供される物

食料

- ✧ 穀物
- ✧ 家畜
- ✧ 捕獲漁業
- ✧ 養殖漁業
- ✧ 野生の食物

繊維

- ✧ 木材
- ✧ 綿、麻、絹
- ✧ バイオマス燃料

淡水、遺伝子資源、装飾資源

生化学物質、自然薬品、医薬品



調節サービス:

生態系によって調節される自然作用

- ✧ 大気の質の調節
- ✧ 気候の調節
 - 地球規模(CO2吸収)
 - 広域的および地域的
- ✧ 水の浄化と廃棄物の処理
- ✧ 水流の調節
- ✧ 自然災害からの防護
- ✧ 土壌浸食の調節
- ✧ 疾病の予防
- ✧ 病害虫と雑草の抑制
- ✧ 花粉媒介



文化的サービス:

生態系から得られる文化的および社会的な恩恵

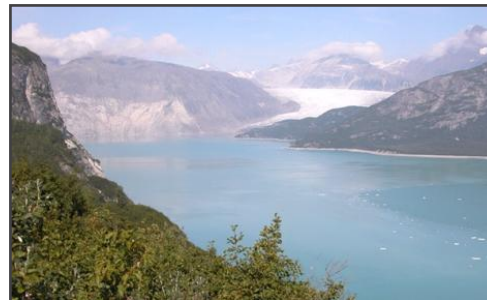
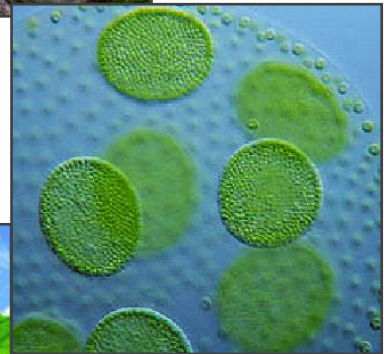
- ✧ レクリエーション
- ✧ エコツーリズム
- ✧ 霊的および宗教的価値
- ✧ 教育的価値
- ✧ 倫理的および「存在」価値



支援サービス:

他のすべてのサービスを維持する機能

- ✧ 栄養塩循環
- ✧ 一次生産
- ✧ 光合成
- ✧ 水循環



種の多様性

遺伝子の多様性

生態系の多様性



出典: <http://www.wbcsd.org/Pages/EDocument/EDocumentDetails.aspx?ID=27&NoSearchContextKey=true>



wbcsd business ecosystems training

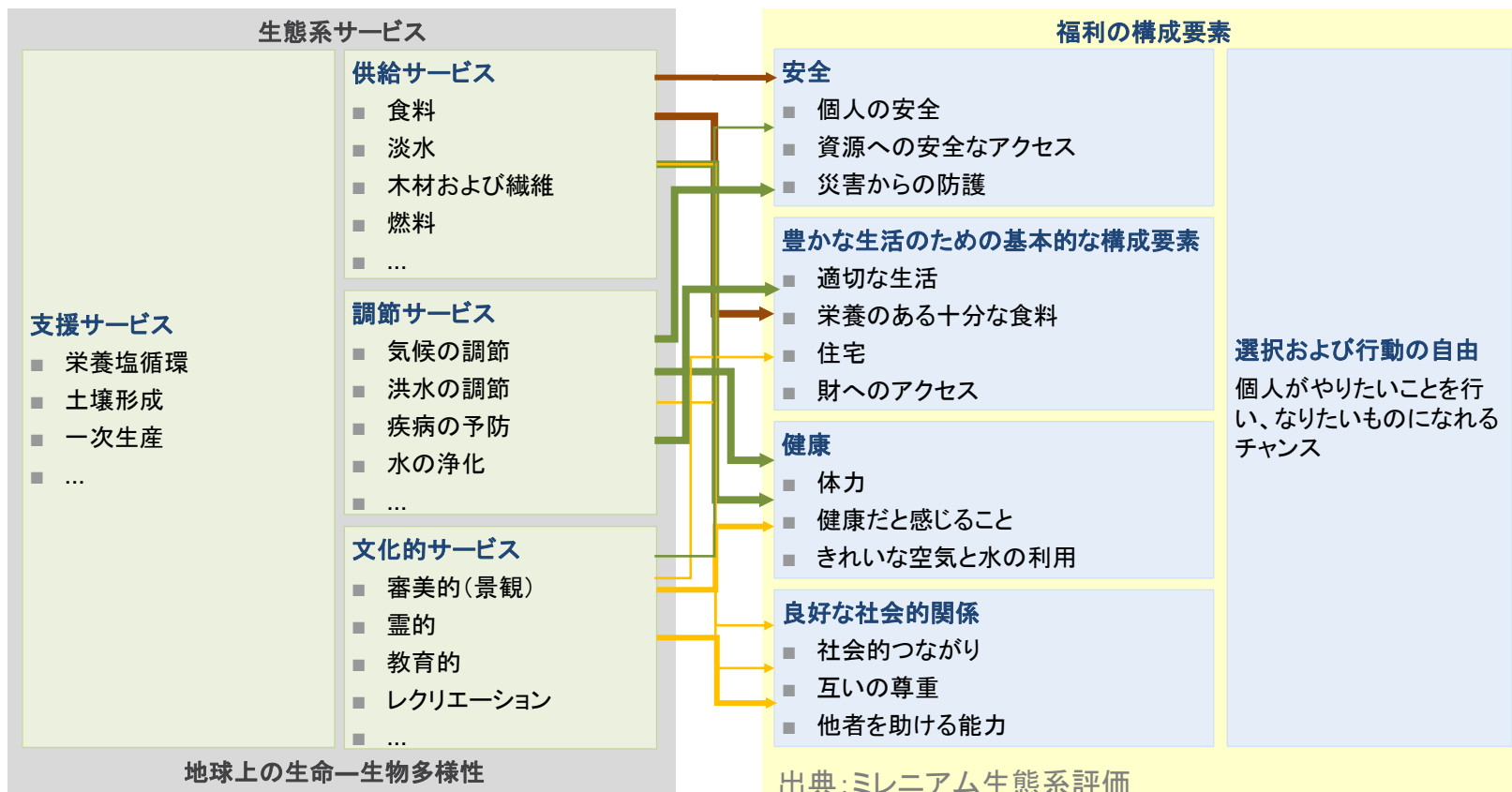
英語版 2012年2月
(日本語訳版 2012年7月)

生物多様性、生態系、および生態系サービス

生物多様性	質	量	サービス(例)
生態系	変化	範囲／程度	レクリエーション 水の調節 生物学的制御
種	多様性	豊富さ	食料、繊維、薬品 デザインインスピレーション 花粉媒介
遺伝子	変異性	個体数	生物工学情報 疾病に対する耐性 適応能力



生態系サービスと人間の福利の関係



矢印の色 社会経済的な要因による媒介の可能性

凡例: ■ 低い ■ 中程度 ■ 高い

矢印の太さ 生態系サービスと人間の福利の関係性の強さ

凡例: □ 弱い □ 中程度 □ 強い

出典:『ミレニアム生態系評価』総合

生態系の状況(ランドスケープ)



出典: ミレニアム生態系評価



生態系の状況(ランドスケープ) [カスタマイズし、任意活用して下さい。]



出典:ミレニアム生態系評価



wbcasd business ecosystems training

英語版 2012年2月
(日本語訳版 2012年7月)

基本コンセプト(続き)ーステークホルダーとの連携

- ✧ ステークホルダーとは次のような団体または個人を指します。
 - a) 組織の活動、製品、またはサービスに大きく影響を受けると想定される団体または個人。
 - b) 組織が戦略を順調に実行して目標を達成する能力に、影響を与えると想定される活動を行っている団体または個人。
- ✧ ステークホルダーとの連携
- ✧ ステークホルダーのマッピング



研修受講者間の対話

主要なコンセプト

Do you know...



モジュール1で、これまでに学んだこと

- ✧ 基本事項の理解 ✓
- ✧ 変化の要因、ビジネスの影響度と依存度
- ✧ 持続可能性との関係 ✓
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 政策と規制の枠組み
- ✧ 有益な知識の獲得



第3章 政策動向の紹介

モジュール1：生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

生態系関連の政策の予備知識

環境規制の長い歴史

- a) 1388年、英国で水汚染の対策 (UK water pollution measures)
- b) 1973年、EUの環境／水に関する行動計画
(EU Action Programme on the Environment / Water)

成長の限界(1972年)

✧ 世界の人口、産業化、汚染、食料生産、資源の枯渇についてモデル化

ブルントラント報告書(1987年)

- ✧ 持続可能な発展を定義
- ✧ 国際社会のさらなる連携を呼び掛け

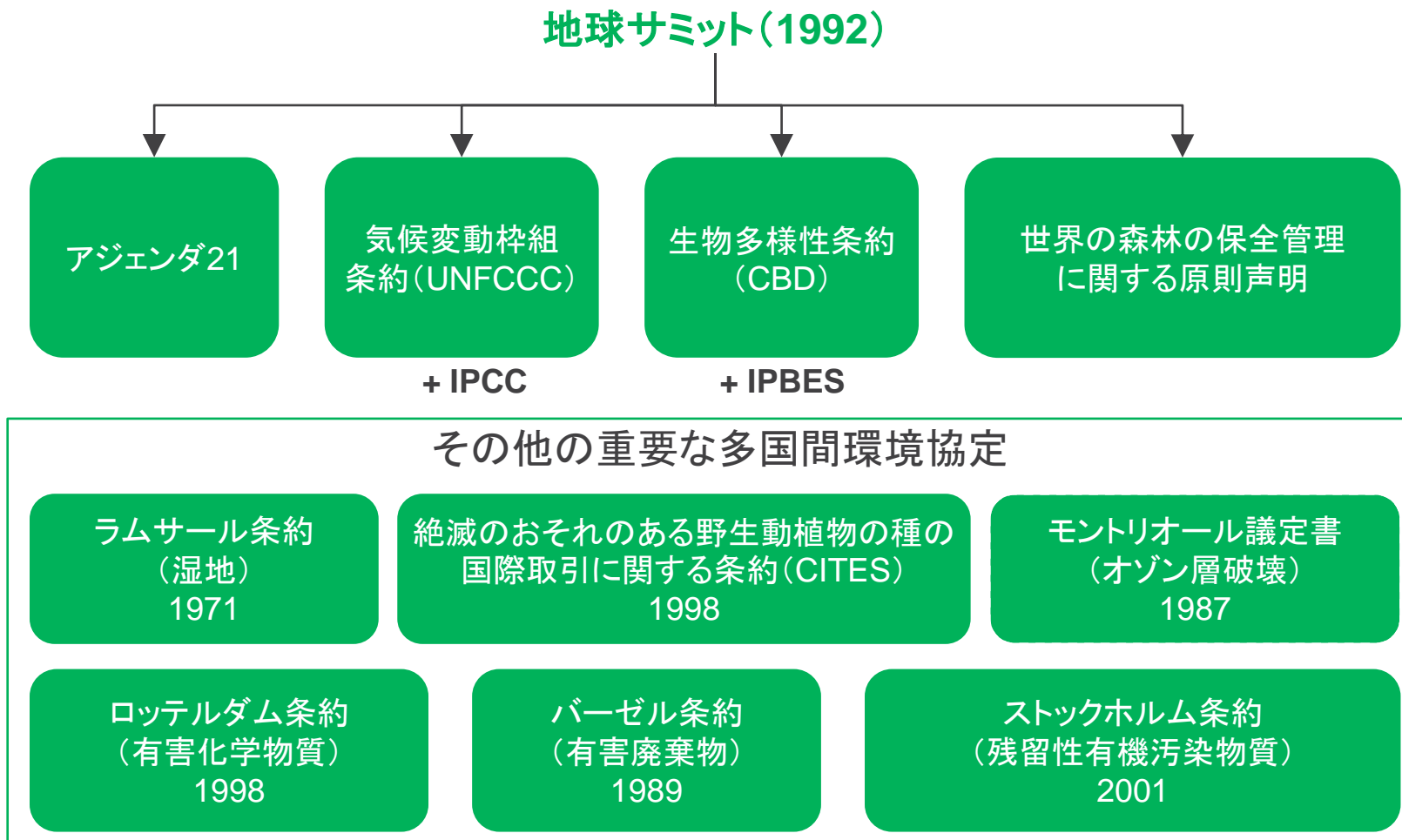
協定、条約、議定書、合意など

環境に関する多国間の合意は250件を超える

地球サミット(1992年)ー「リオ・プロセス」の始まり

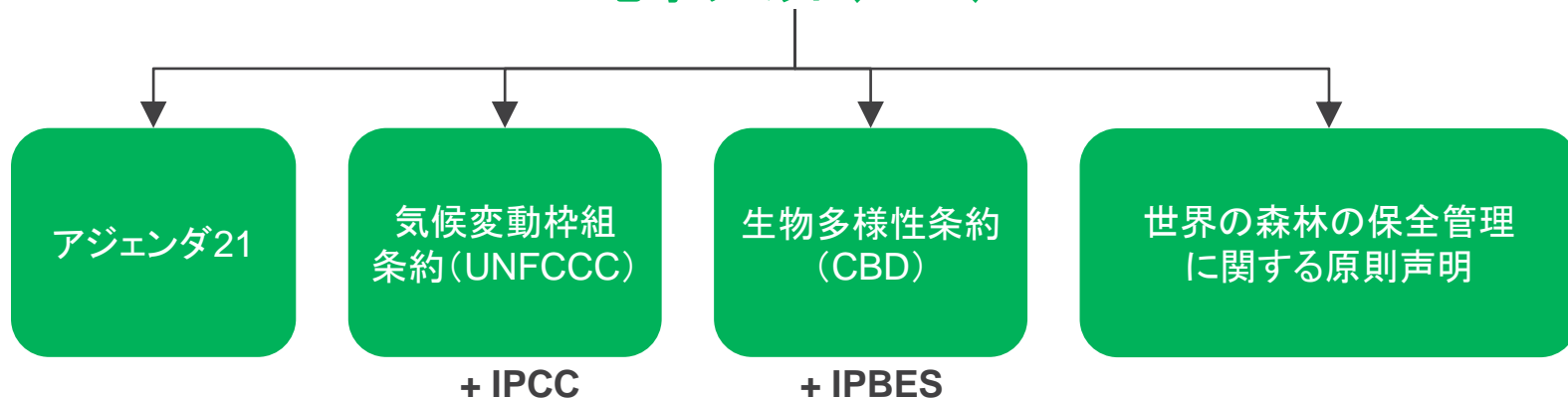


生態系関連の政策の予備知識(続き)

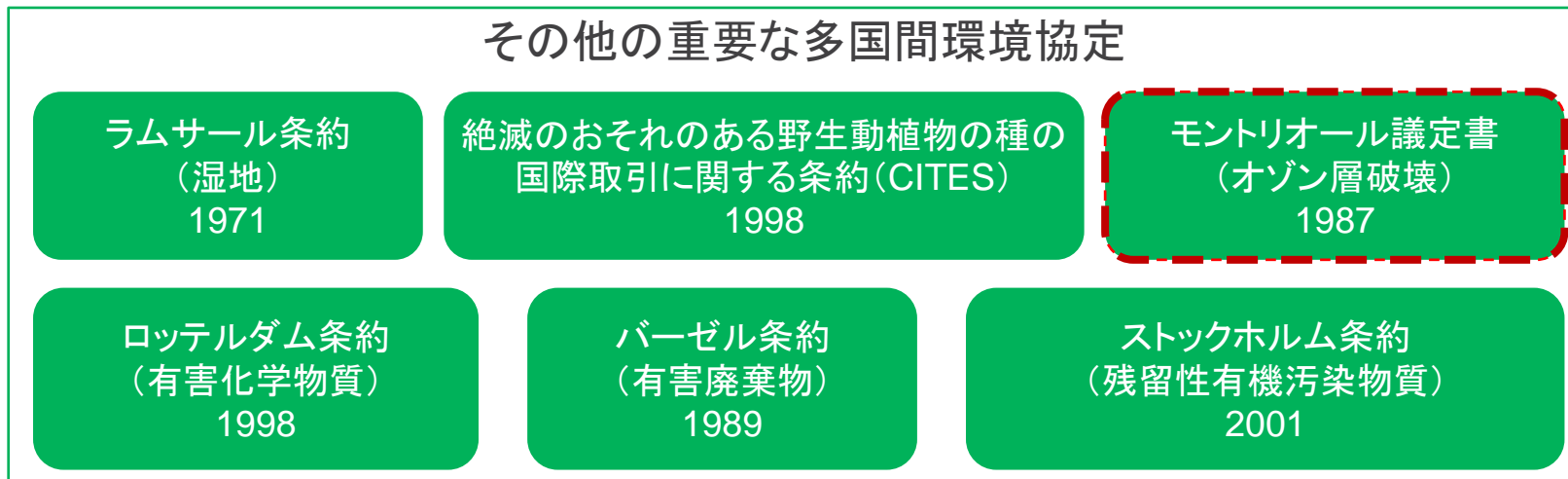


生態系関連の政策の予備知識(続き)

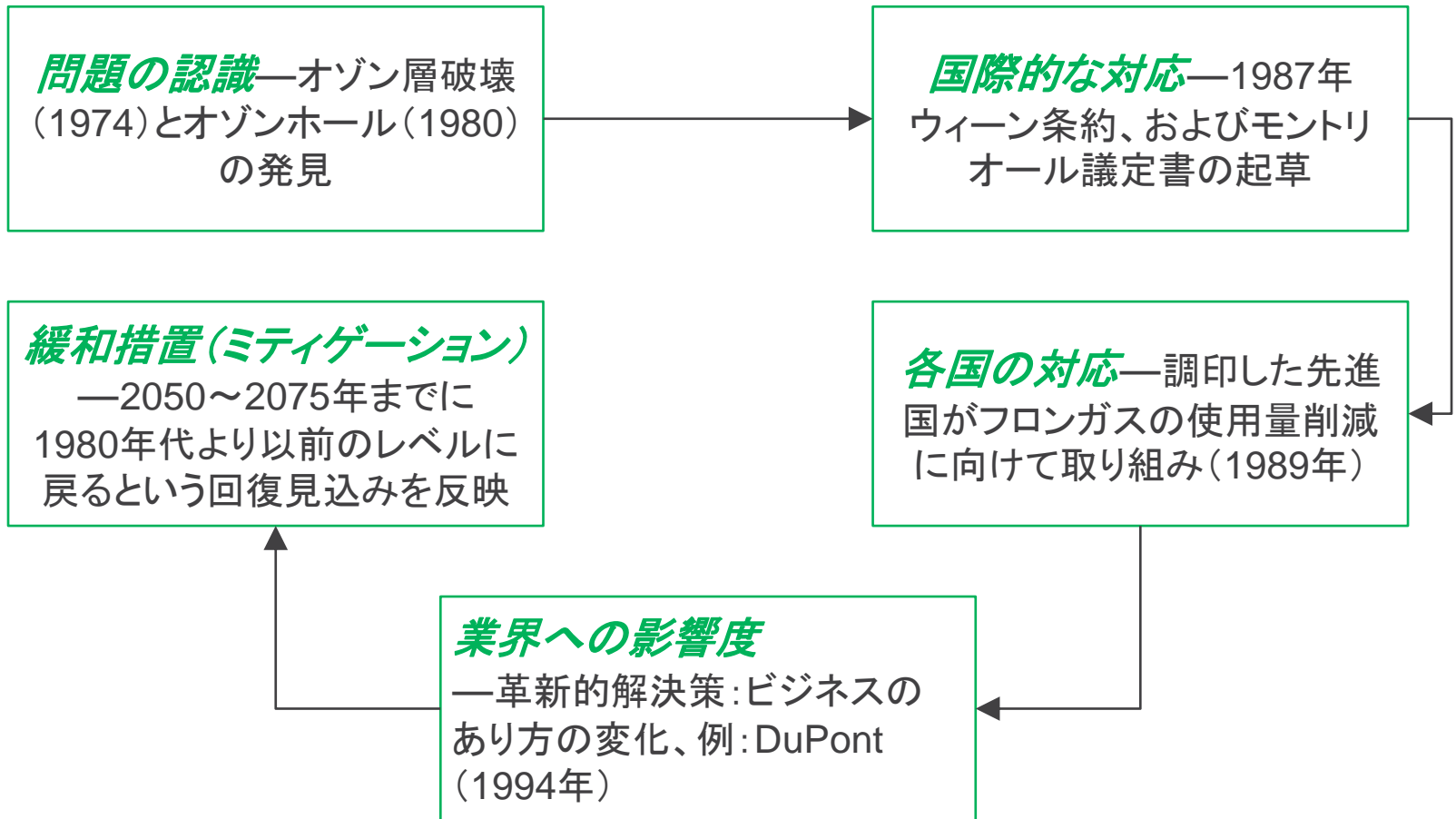
地球サミット(1992)



その他の重要な多国間環境協定

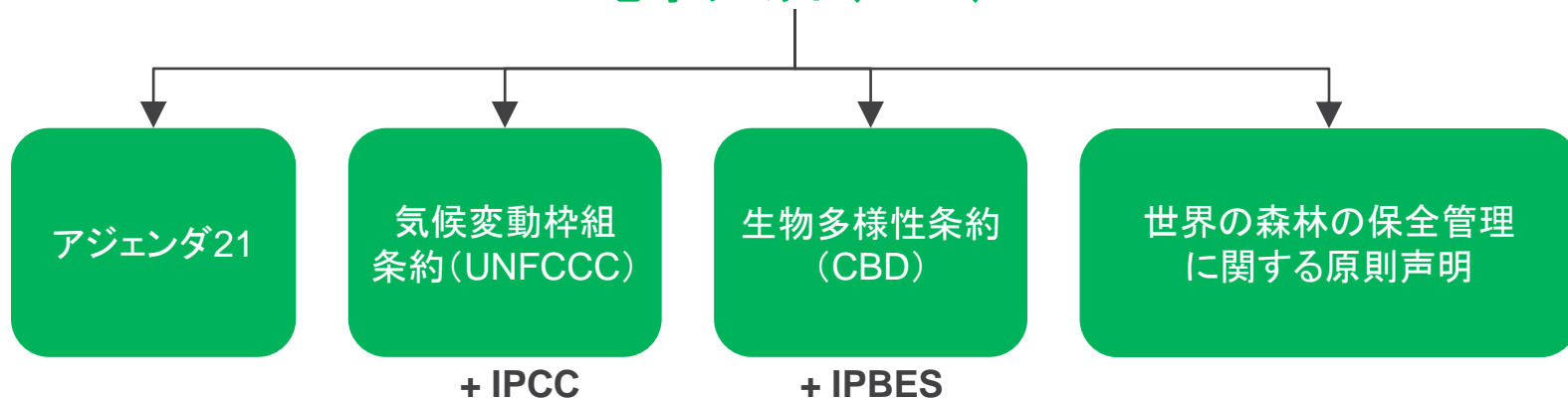


国際的な政策動向—オゾン層の例

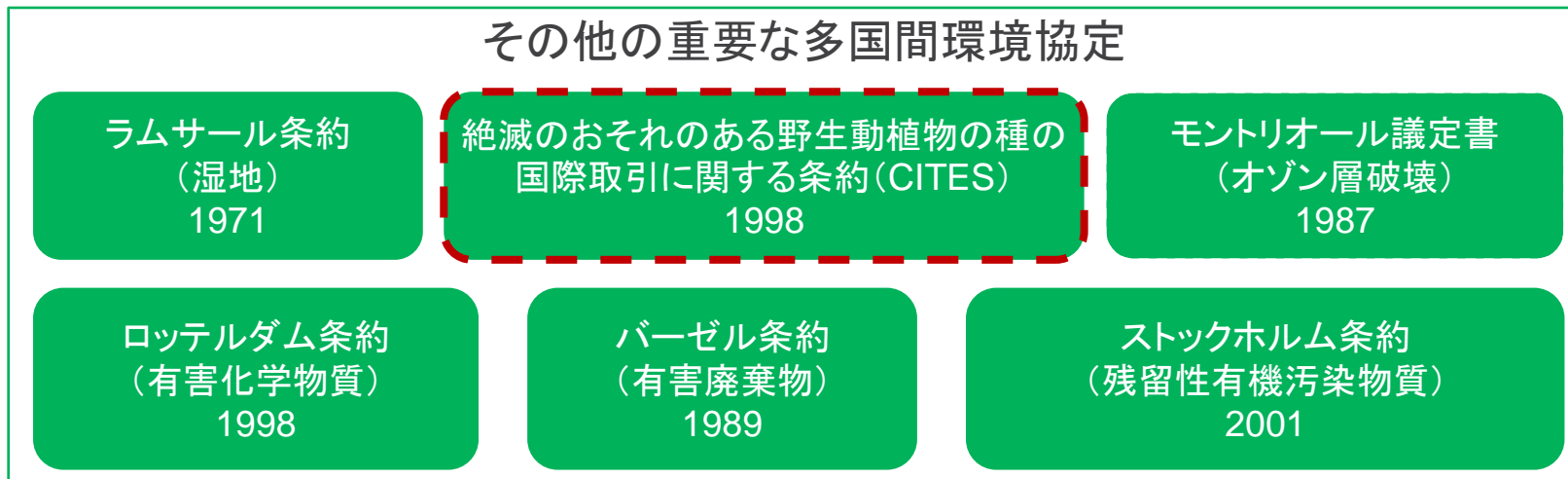


生態系関連の政策の予備知識(続き)

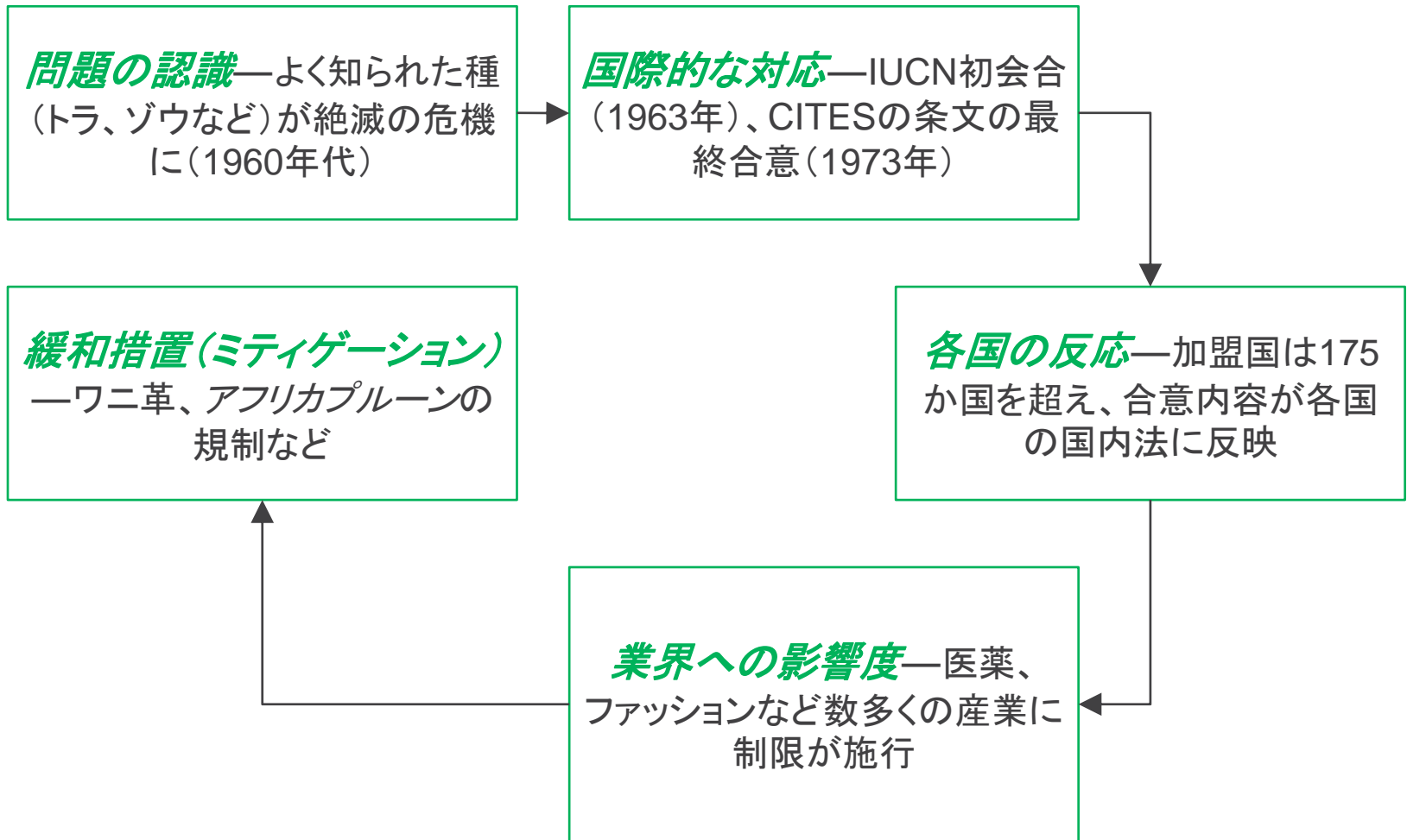
地球サミット(1992)



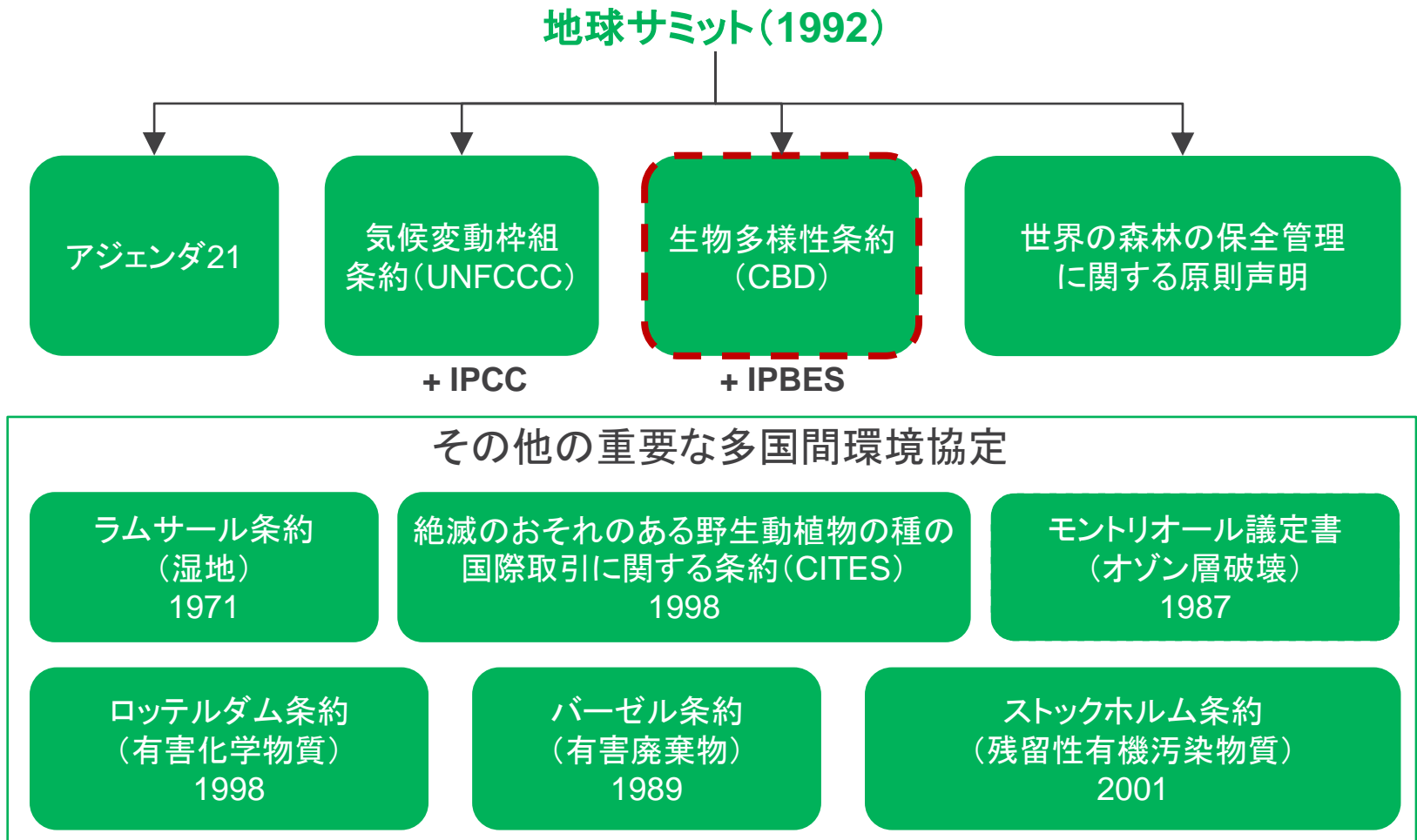
その他の重要な多国間環境協定



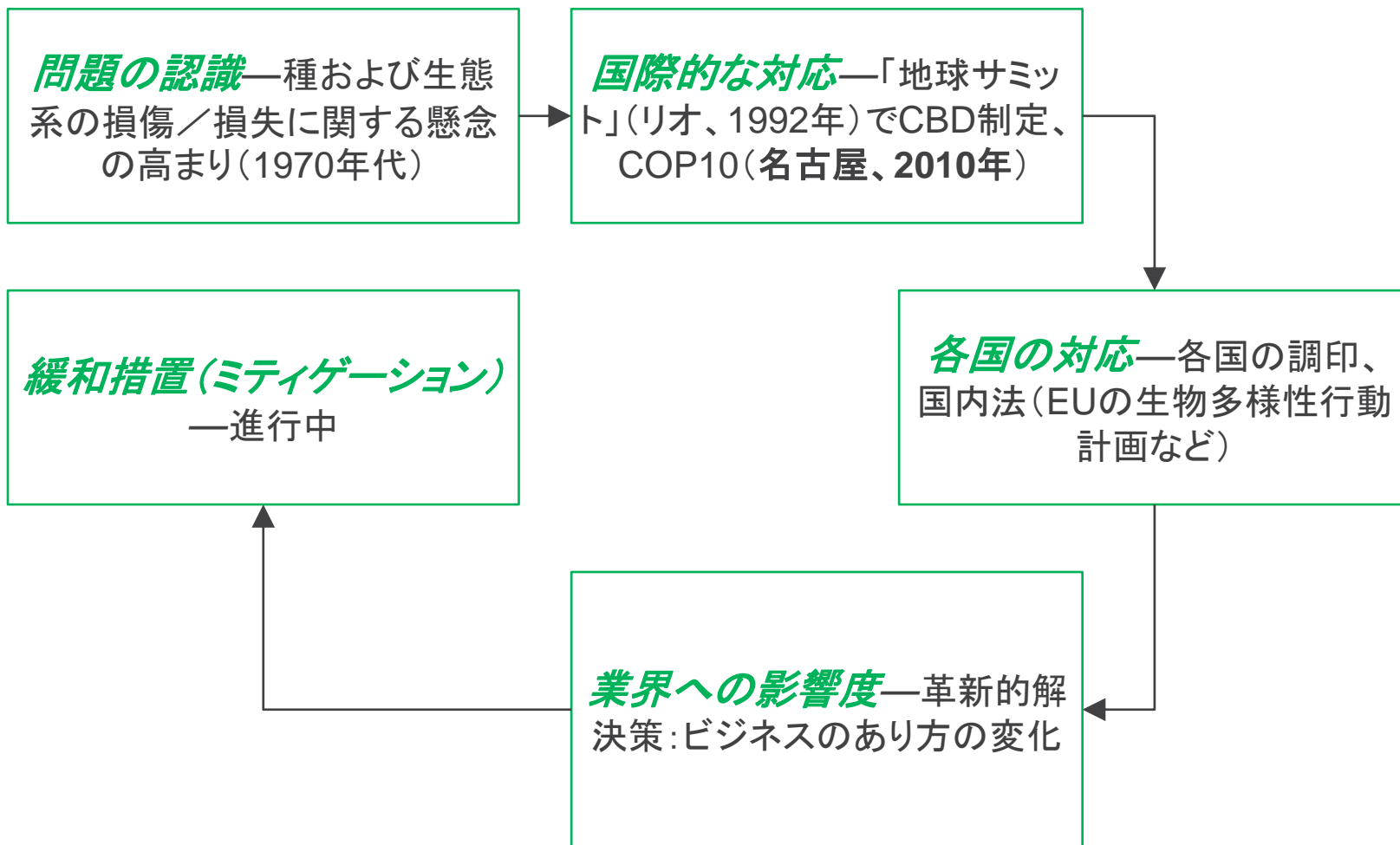
国際的な政策動向—CITESの例



生態系関連の政策の予備知識



国際的な政策動向—CBDの導入



モジュール1で、これまでに学んだこと

- ✧ 基本事項の理解 ✓
- ✧ 変化の要因、ビジネスの影響度と依存度
- ✧ 持続可能性との関係 ✓
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 政策と規制の枠組み ✓
- ✧ 有益な知識の獲得



第4章

主要な生態系サービスの明確化 (エクササイズ)

モジュール1: 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

質問とディスカッション

ビジネス・エコシステムズ・トレーニング (Business Ecosystems Training) —スコアカード

自社に影響を与えている問題			
水不足	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> わからない
気候変動	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> わからない
生息地の変化	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> わからない
生物多様性の損失	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> わからない
海洋資源の乱獲	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> わからない
栄養素過剰	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> わからない
その他.....			
自社が恩恵を受けている、または影響を与えている生態系サービス			
供給サービス 生態系から得られる物や製品 (食料、淡水、木材、繊維など)	<input type="checkbox"/> 恩恵を受けている	<input type="checkbox"/> 影響を与えている	<input type="checkbox"/> わからない
調節サービス 生態系によって制御される自然プロセス (気候、疾病、土壌浸食、水流、花粉媒介)から得られる 恩恵、自然災害からの防護を含む	<input type="checkbox"/> 恩恵を受けている	<input type="checkbox"/> 影響を与えている	<input type="checkbox"/> わからない



質問とディスカッション(続き)

ビジネス・エコシステムズ・トレーニング (Business Ecosystems Training) —スコアカード

自社に影響を与えている課題			
文化的サービス レクリエーションの場、霊的な価値、(自然から得る)審美的な楽しさなど、生態系から得られる非物質的な恩恵	<input type="checkbox"/> 恩恵を受けている	<input type="checkbox"/> 影響を与えている	<input type="checkbox"/> わからない
注: 支援サービスは上記の3つのサービスの基盤となっているため、支援サービスについての具体的な質問はしません (支援サービス: 栄養塩循環や他の生態系サービスを維持する一次生産などの自然プロセス)。			
自社が率先して生態系問題に取り組んでいる理由			
リスク管理のため	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> その手法は?
運営上の効率を上げるため	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> その手法は?
ビジネス上のチャンスを得るため	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> その手法は?
その他の活動			
自社の戦略として、生態系の劣化による長期的な影響を考慮していますか			
	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> その手法は?



- 質問・意見・感想



企業分野と生態系サービスの価値との関係

企業分野と生態系サービスの価値との関係								
主要な生態系サービス	企業1		企業2		企業3		企業4	
	依存度	影響度	依存度	影響度	依存度	影響度	依存度	影響度
供給サービス								
食料	●	●	●	●	●	●	●	●
木材、繊維	●	●	●	●	●	●	●	●
淡水	●	●	●	●	●	●	●	●
遺伝子資源／医薬的資源	●	●	●	●	●	●	●	●
調節サービス								
気候と大気の質の調節	●	●	●	●	●	●	●	●
水の調節や浄化	●	●	●	●	●	●	●	●
花粉媒介	●	●	●	●	●	●	●	●
自然災害からの防護	●	●	●	●	●	●	●	●
文化的サービス								
レクリエーションとエコツーリズム	●	●	●	●	●	●	●	●
審美的／非利用価値	●	●	●	●	●	●	●	●
霊的価値	●	●	●	●	●	●	●	●

● ある程度～大きく関係している ● 少し関係している ● 関係していない

注：この表に「支援サービス」は含まれていません。支援サービスは供給サービス、調節サービス、文化的サービスの中にすでに含まれているためです。



生態系：主要な生態系サービスの明確化

ディスカッションしましょう。

自社はどの生態系サービスにたよっていますか、またはどの生態系サービスから恩恵を得ていますか？



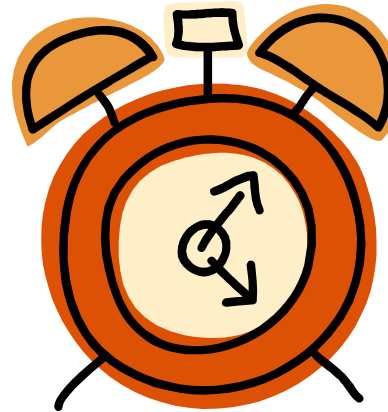
10分間



質問・意見・感想



休憩



30分間



第5章

グローバルな生態系の課題

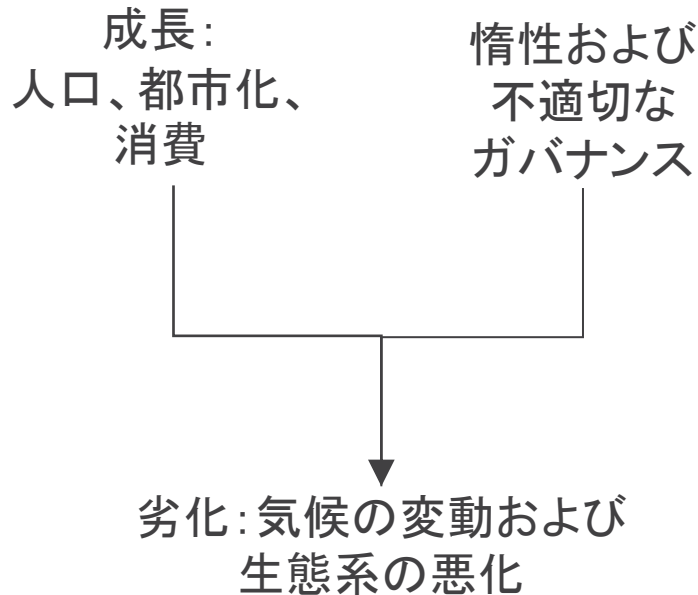
モジュール1: 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

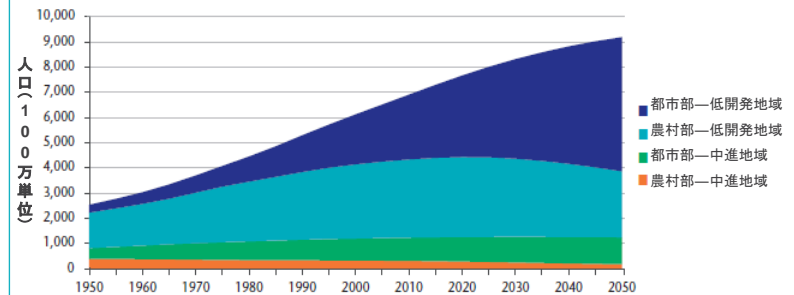
Vision 2050—現状維持(BAU)のためのグローバルな課題

The Vision: In 2050, around 9 billion people live well, and within the limits of the planet. (2050年に約90億人の人間が地球の限界の範囲内で豊かに暮らす)



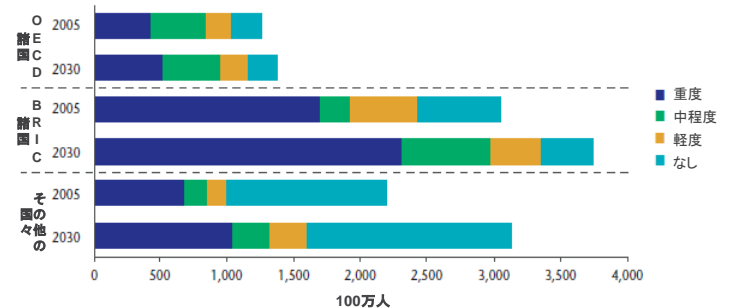
出典: WBCSD。Vision 2050

世界の人口は都市部で増加中
区域別と地域別の世界の人口—1950~2050



出典: 国連Population Division、『World Population Prospects: The 2008 Revision』、2008

人々の生活の質を脅かす環境の劣化
水ストレス地域に住む人々(ストレスのレベル別)



出典: OECD、『Environmental Outlook to 2030』、2008



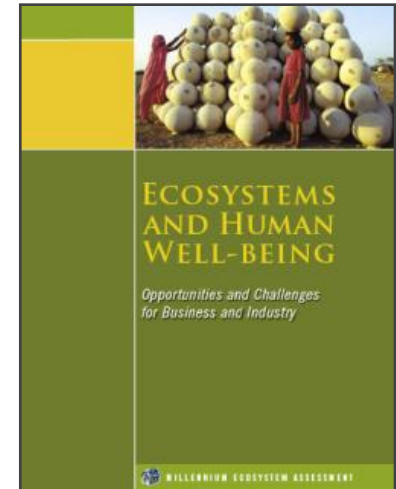
予期する将来に影響を与える要因—2050年まで

- ✧ 人口規模(90億人に達する)
- ✧ ライフスタイルの変化(都市化の増大および1人あたりの所得が2~4倍に増加)
- ✧ ガバナンスおよび政策による対応(グローバルな課題への対応の調整)
- ✧ 土地転換および生息地の損失(さらに10~20%の牧草地および森林地の転換)
- ✧ 乱獲を含む乱開発(圧力の増加)
- ✧ 外来種の侵入(拡大中)
- ✧ 反応性窒素の排出(さらに66%増加—過去50年間ですでに倍増)
- ✧ 気候の変動(地球温暖化の継続—生態系劣化および生態系サービス損失において最重要のグローバルな原因になると予測)



2005:ミレニアム生態系評価

- ❖ 世界の生態系の多くが深刻な衰退状況にあります
- ❖ 水の浄化、花粉媒介、気候の調節など、重要な生態系サービスの継続的な供給が危うくなっています
- ❖ 相互に関連した6つの課題が、ビジネスにおいて特に懸念されます



水
不足



気候
変動



生息地
変化



生物多様性
損失



海洋資源の
乱獲



栄養素
過剰

出典： WBCSD、WBCSDレポート『Connecting the dots』プレゼンテーション
『ミレニアム生態系評価』2005『Ecosystems and Human Well-being: Opportunities and Challenges for Business and Industry』



ミレニアム生態系評価(MA)による生態系に関する主要な調査結果

世界の生態系の構成および機能が過去50年間で急速に変化しました

- ✧ 世界のサンゴ礁の20%が失われ、20%以上のサンゴ礁が劣化しています
- ✧ 過去数十年間でマングローブ地域の35%が失われました
- ✧ 1960年から貯水池の水量が4倍になりました
- ✧ 1960年から河川および湖沼からの取水量が倍増しました



出典:『ミレニアム生態系評価』、2005



生態系サービスに関するMAの主要な調査結果

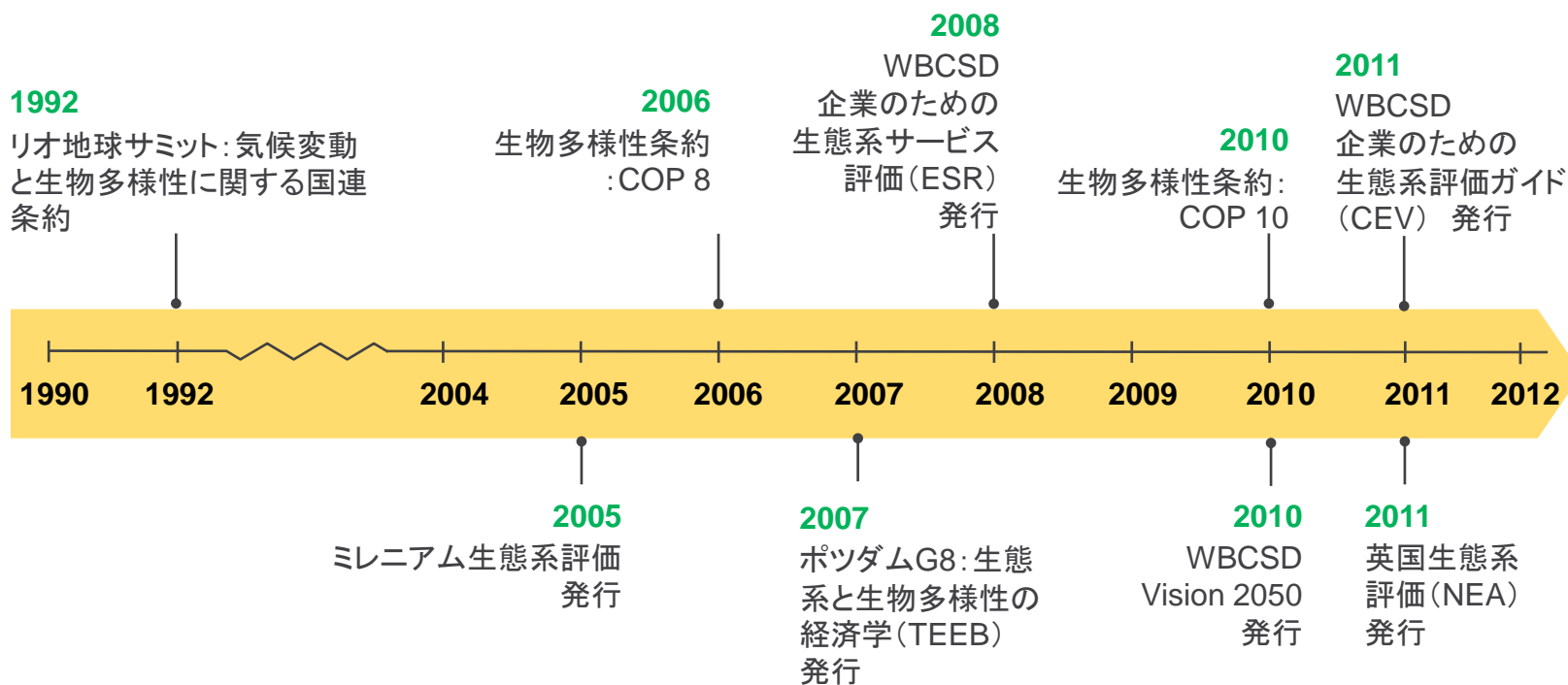
世界の生態系サービスの60%が劣化しています。

	劣化	向上と劣化の混在	向上
供給サービス	捕獲漁業 野生の食物 バイオマス燃料 遺伝子資源 生化学物質、自然薬品、医薬品 淡水	木材および木質繊維 その他の繊維 (綿、麻、絹など)	穀物 家畜 養殖漁業
調節サービス	大気の質の調節 広域的および地域的な気候の調整 土壌浸食の調節 水の浄化と廃棄物の処理 病虫害と雑草の抑制 花粉媒介 自然災害からの防護	水の調節 疾病の予防	グローバルな 気候の調節 (炭素吸収)
文化的サービス	霊的価値、宗教的価値、文化遺産価値 審美的価値(景観)	レクリエーションと エコツーリズム	

出典:『ミレニアム生態系評価』2005



グローバルな生態系の主な発展の年表



地球規模生物多様性概況(Global Biodiversity Outlook) レポート(CBD)

生物多様性の次の3つの主要構成要素が減少し続けています

 遺伝子

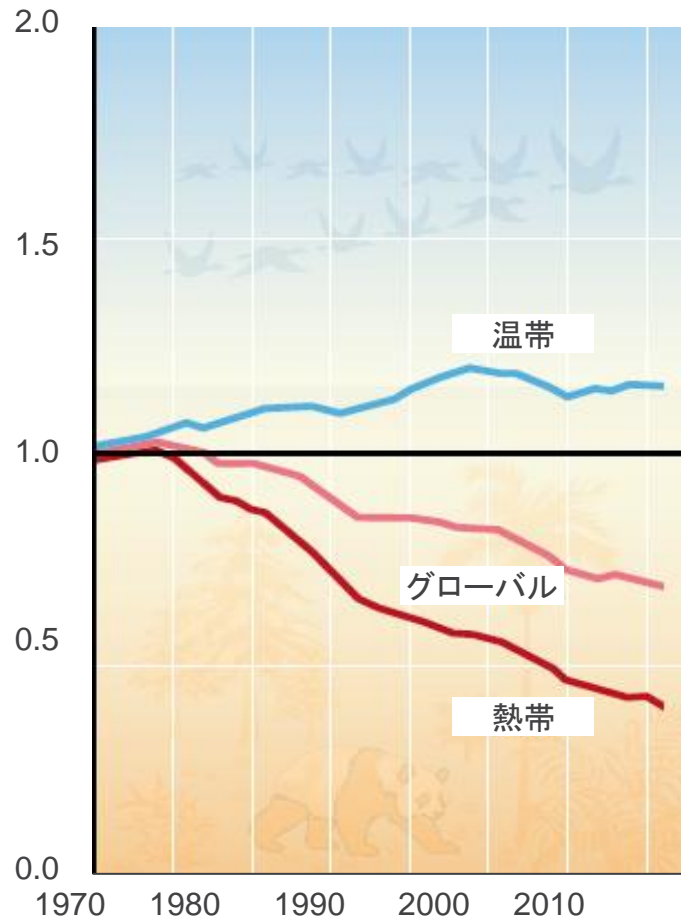
 種

 生態系



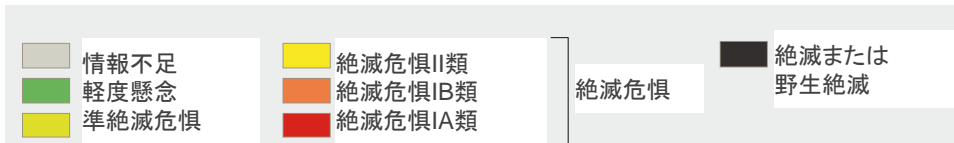
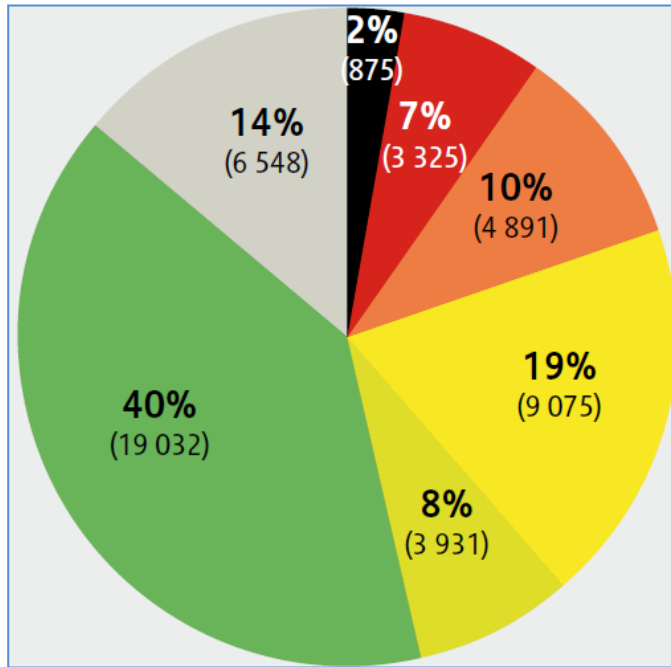
この分野の最新調査結果

リビング・プラネット・インデックス

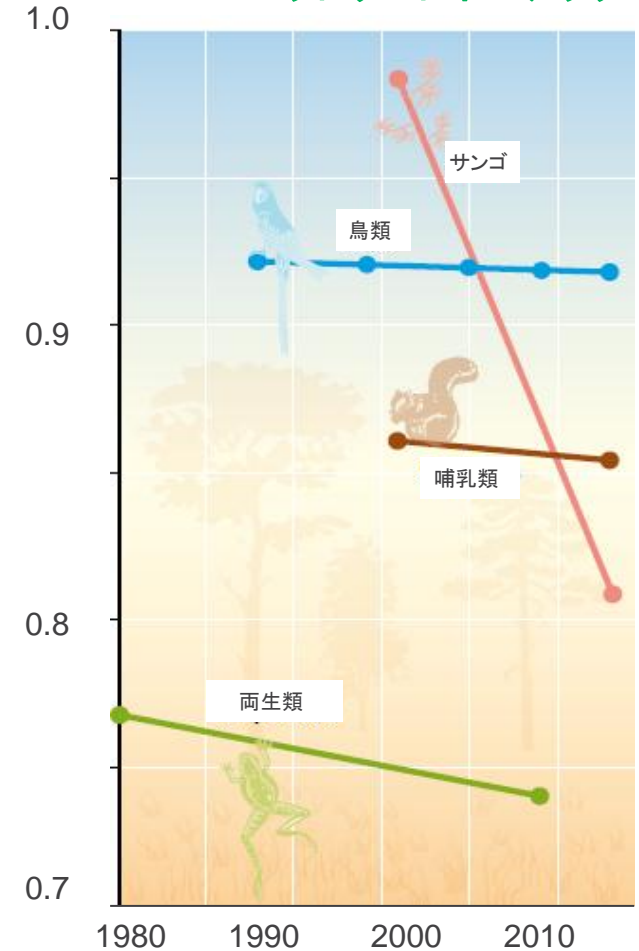


この分野の最新調査結果(続き)

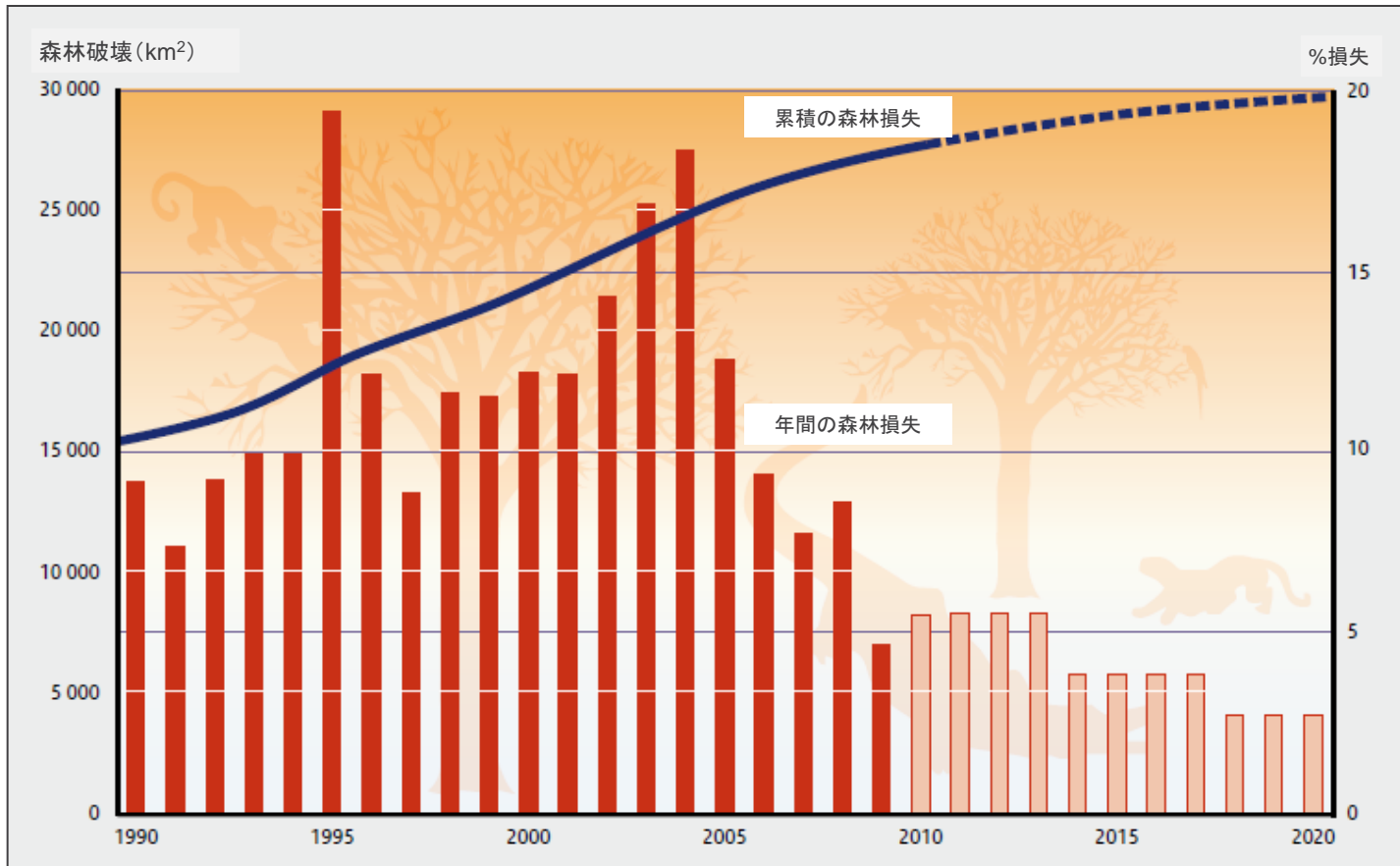
絶滅リスク—IUCNレッドリスト



IUCNレッドリストインデックス



この分野の最新調査結果(続き)



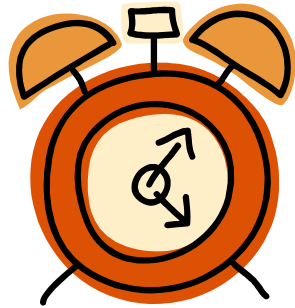
ブラジルのアマゾンの年間および累積の森林破壊



[オプション]

対話形式のエクササイズ：生態系の変化の要因 —Vision 2050

生態系と生態系サービスの変化や劣化は、何が主な要因だと思いますか？また何が根本的な原因だと思いますか？

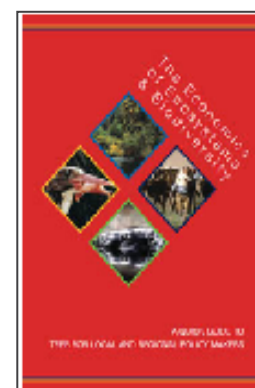
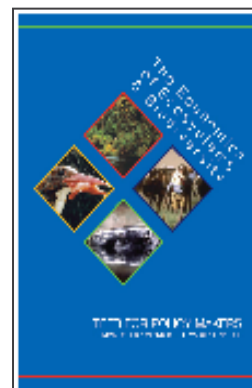


5分間でいくつ書き出せますか？



TEEB (生態系と生物多様性の経済学): 主な目的

- ✧ 生態系および生物多様性を保護するための経済的事例の理解
- ✧ エンドユーザー向けの一連の報告書
 - 生態学者および経済学者向け (TEEB D0)
 - 国際および国内の政策立案者向け (TEEB D1)
 - 地域的および広域的政策向け (TEEB D2)
 - ビジネス向け (TEEB D3)
 - 一般人向け (TEEB D4)



出典: <http://www.teebweb.org/>

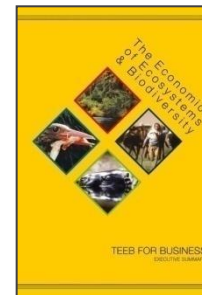
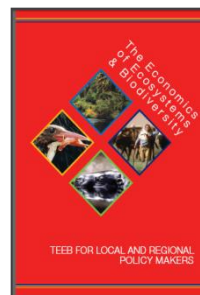
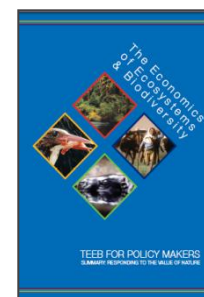
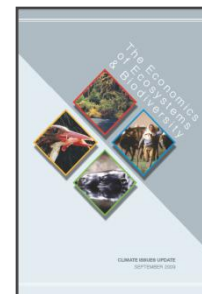
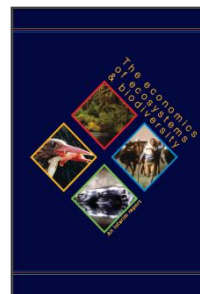
自然価値は変化している—TEEB

緊急の戦略的優先順位:

- ✧ 森林破壊および森林劣化の停止
- ✧ 熱帯サンゴ礁の保護
- ✧ グローバルな漁業資源の保護と回復
- ✧ 生態系劣化と農村の貧困の持続との関係を認識

政策による解決策:

- ✧ 支払い制度や市場によって利便を得る
- ✧ 環境に悪影響を及ぼす補助金の改革
- ✧ 保護区域による付加価値
- ✧ 生態学的なインフラストラクチャへの投資



第6章

ケース・スタディーとエクササイズ

モジュール1: 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcSD business ecosystems training

ケース・スタディーとエクササイズ —ArcelorMittal

モジュール1：生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

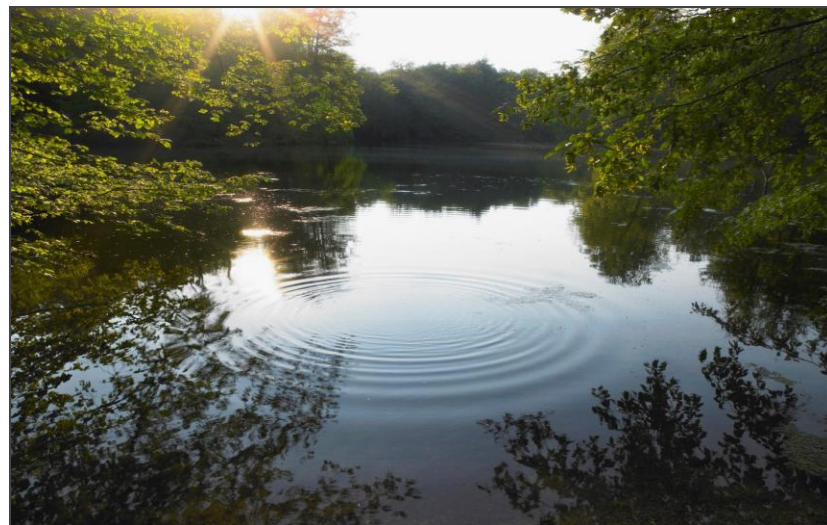
ビジネスとしての価値の創出—ArcelorMittal

課題

水への依存度

五大湖流域における
ArcelorMittal所有の事業

- ✧ 五大湖周辺
米国およびカナダにわたる
9つの施設
- ✧ 鉄と石炭に次いで、水が
製鋼工程において最も重要な構成要素
 - 1トンの鋼鉄あたり13,000～23,000ガロンの水を使用
- ✧ 製造原材料の輸送や製品流通でも五大湖に依存
- ✧ 3,700万人(25,000人以上のArcelorMittal従業員を含む)が生活し、飲料水、レクリエーション、および食料供給源を五大湖に依存



ビジネスとしての価値の創出—エクササイズ

ArcelorMittalは、五大湖流域への影響度および依存度を管理するための戦略を実施することにしました。

グループごとに、以下の質問について話し合ってください。

- 1) このケース・スタディーに該当する生態系および生態系サービスは何ですか？
- 2) ArcelorMittalの生態系サービスへの影響度および依存度はどれくらいですか？
- 3) 質問1と2の回答を踏まえて、ArcelorMittalはその影響度および依存度に対してどのように取り組むことができますか？



ケース・スタディーとエクササイズーLafarge

モジュール1: 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

ビジネスとしての価値の創出—Lafarge

課題

影響度を緩和(ミティゲート)し、生物多様性を回復します。
採取産業にとって重要なステップです。

- ✧ Lafargeは資源採取および建築資材の事業を展開するフランスの企業グループです。
- ✧ 世界中で、特に発展途上国で事業を展開しています。
- ✧ 土壌の除去や生息地の破壊など、影響を与える可能性がいくつかあります。
- ✧ 企業の評判を上げ、鉱業が受け入れられるために、影響度を管理、緩和(ミティゲート)しています。



ビジネスとしての価値の創出—エクササイズ

Lafargeは、生物多様性／生態系サービスへの影響度および依存度を管理するための戦略を実施することにしました。

グループごとに、以下の質問について話し合ってください。

- 1) このケース・スタディーに該当する生態系および生態系サービスは何ですか？
- 2) Lafargeの生態系サービスへの影響度および依存度はどれくらいですか？
- 3) 質問1と2の回答を踏まえて、Lafargeはその影響度および依存度に対してどのように取り組むことができますか？



ケース・スタディーとエクササイズ—BASF

モジュール1: 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

ビジネスとしての価値の創出—BASF

課題

BASFは世界有数の化学会社です。

作物保護事業の運営により、持続可能な農業を向上させようと農業従事者と協力しています。

- ✧ BASFは、生態系の機能が農業や、自社の顧客である農業従事者にとって重要であることを認識しています。
- ✧ 競争力のある農業は、社会に受け入れられるために、生物多様性と両立する必要があるという意識を持っています。



ビジネスとしての価値の創出—エクササイズ

BASFは、生物多様性／生態系サービスへの影響度および依存度を管理するための戦略を実施することにしました。

グループごとに、以下の質問について話し合ってください。

- 1) このケース・スタディーに該当する生態系および生態系サービスは何ですか？
- 2) BASFの生態系サービスへの影響度および依存度はどれくらいですか？
- 3) 質問1と2の回答を踏まえて、BASFはその影響度および依存度に対してどのように取り組むことができますか？



モジュール1で、これまでに学んだこと

- ✧ 基本事項の理解 ✓
- ✧ 変化の要因、ビジネスの影響度と依存度 ✓
- ✧ 持続可能性との関係 ✓
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 方針／政策と規制の枠組み ✓
- ✧ 有益な知識の獲得



第7章 認知度チェック

モジュール1： 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

研修受講者間の対話

主要なコンセプト

Do you know...



第8a章

おさらい—行動のためのビジネス事例

モジュール1: ビジネスと生態系の関係性の理解

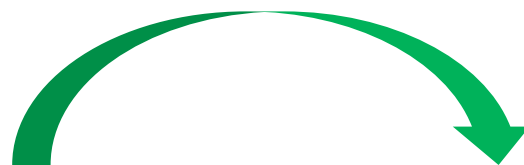


wbcSD business ecosystems training

行動のためのビジネス事例



ビジネスが、生態系および生態系サービスに影響を与える



生態系の変化は、ビジネスに**リスク**と**チャンス**をもたらす



ビジネスは、生態系および生態系サービスにたより、依存している



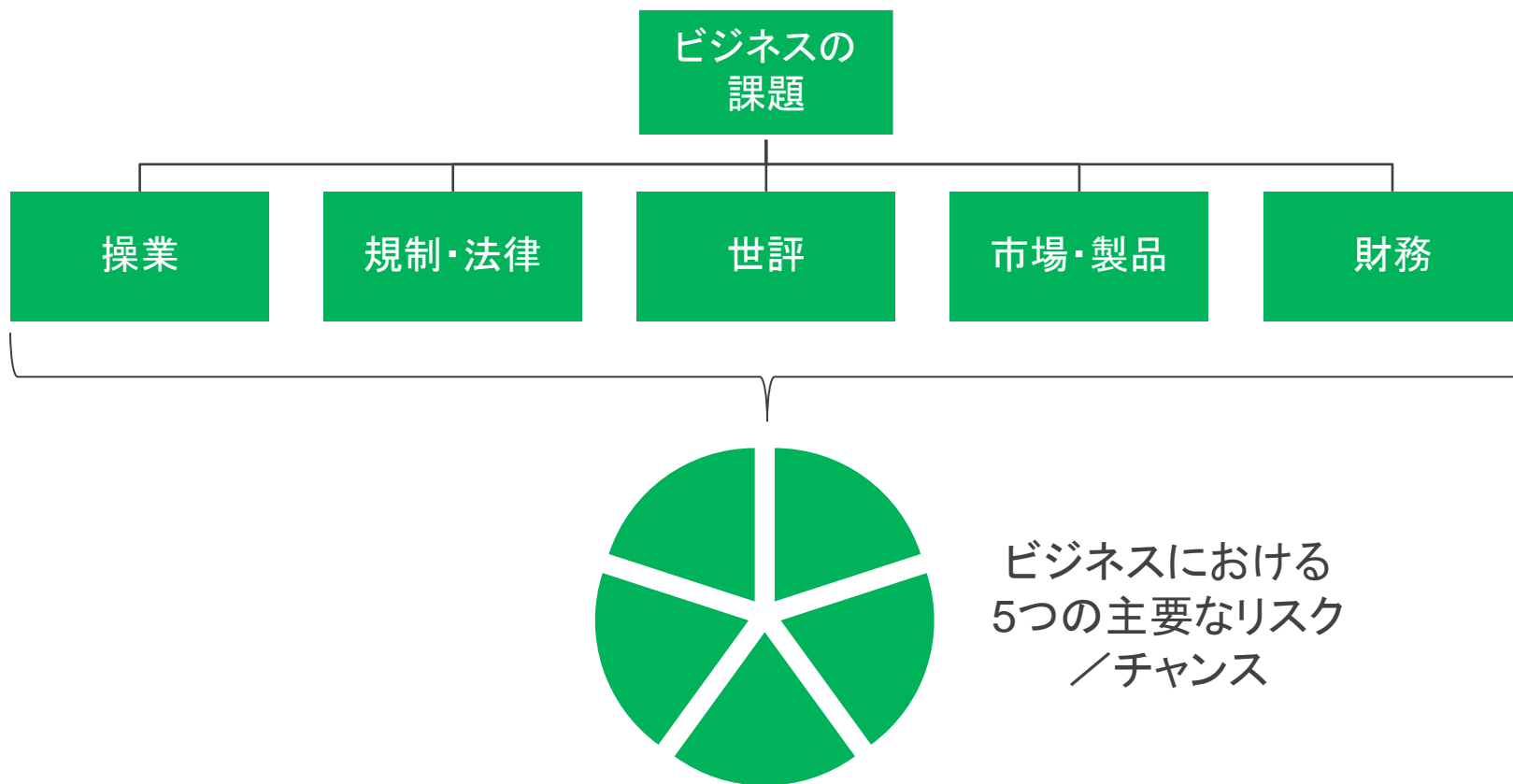
導入

日常業務および供給連鎖で企業が直面する問題:

- ✧ 水不足と水質の低下
- ✧ 食料、繊維、その他の産業上の天然材料の破壊
- ✧ 大洪水、巨大な嵐、大干ばつなどの増加
- ✧ ステークホルダーの期待の高まり(NGO、顧客、投資家など)
- ✧ 天然資源管理または事業の許可に対する公共政策の締め付け
- ✧ 従来のリスク管理プロセスは、必ずしも生態系リスクおよびチャンスを取り込んでいません



さまざまなリスクとチャンスー概要



さまざまな種類の リスクとチャンスの紹介



操業

リスク

- ✧ 原材料の不足拡大とコスト増加

チャンス

- ✧ 業務効率の改善およびコストの削減
- ✧ 従業員／ステークホルダーの認識



さまざまな種類の リスクとチャンスの紹介(続き)



規制・法律

リスクとチャンス:

✦ 公共政策(税金、補助金、採取活動の一時停止など)。
生態系の価値を現在考慮している法令の例は、以下のとおりです。

- (欧州)水枠組指令 (The water framework directive)
- (欧州)海洋戦略枠組指令(The marine strategy framework directive)
- 南アフリカの水に関する白書(South African water white paper)
- (欧州)環境責任指令(The Environmental liability directive)
- 遺伝資源の取得と利益配分 (Access and benefit sharing)



さまざまな種類の リスクとチャンスの紹介(続き)



世評

リスク

- ✧ 顧客および他のステークホルダーとの関係
- ✧ 会社のブランド、イメージ、業務上の信用への影響
(例、メディアからのイメージやNGO)

チャンス

- ✧ 企業ブランドの差別化のための、持続可能な購入、運営、
または投資原則の実施と伝達



さまざまな種類の リスクとチャンスの紹介(続き)



市場・製品

リスク

- ✦ 製品、サービス提供、消費者の好み、および企業の業績に関わるその他の市場要因に関するもの
- ✦ 消費者の好み

チャンス

- ✦ 新しい環境市場に参入する場合の将来性がある新たな収益源



さまざまな種類の リスクとチャンスの紹介(続き)



財務

リスク

✧ コストや企業の資本調達の可能性に影響するもの

チャンス

✧ より好ましい融資条件を得られる企業となる可能性

✧ 新しいグリーンファンドの利用



第8b章 企業の対応可能な反応

モジュール1: ビジネスと生態系の関係性の理解



wbcSD business ecosystems training

企業はどのように対応できますか？

- ❖ 生物多様性と生態系への影響度と依存度の**リスク**の測定、管理、緩和(ミティゲート)を行い、**新しいチャンス**を探ります
- ❖ ビジネスリスクとビジネスチャンスを定量化するために、**企業のための生態系評価(CEV)**に取り組みます
- ❖ 次の開発において**イノベーション**を行い、主導します
 - 生態系サービスの市場
 - 環境効率の良い製品、サービス、技術
- ❖ **サプライヤと購入者**(SMEを含め)に、サプライチェーン全体に「最適な」生物多様性に関する活動を取り入れるように促進します
- ❖ 現場の解決策を求めて、地方自治体、政府、NGO、科学界と**創造的なパートナーシップ**を組みます
- ❖ 劣化を逆転し、市場動向を活用し、だれに対しても「条件を平等にし」、社会的かつ生活の恩恵を支援する「**スマートな**」**生態系規制**を**サポート**します



第9章 ビジネス事例に基づいたブレインストーミング

モジュール1: ビジネスと生態系の関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

ケース・スタディーとエクササイズ —ArcelorMittal

モジュール1: 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

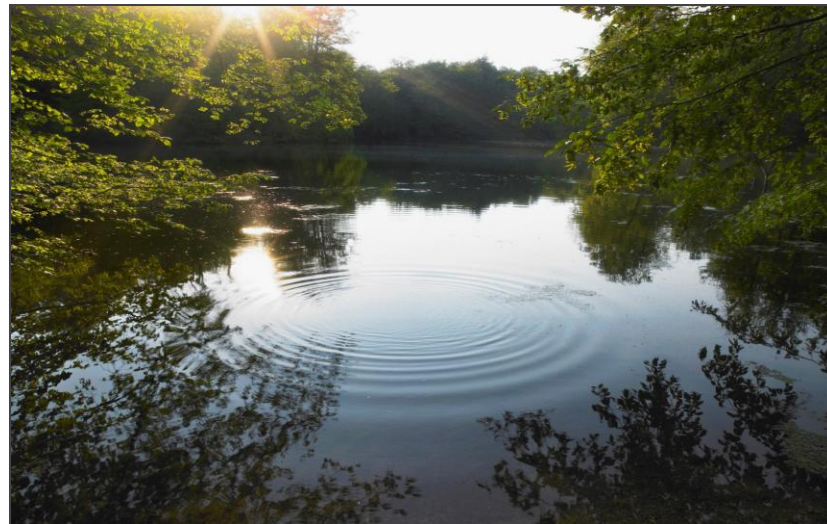
ビジネスとしての価値の創出—ArcelorMittal

課題

水への依存度

五大湖流域における
ArcelorMittal所有の事業

- ✧ 五大湖周辺
米国およびカナダにわたる
9つの施設
- ✧ 鉄と石炭に次いで、水が
製鋼工程において最も重要な構成要素です。
 - 1トンの鋼鉄あたり13,000～23,000ガロンの水。
- ✧ 製造原材料の輸送や製品流通でも五大湖に依存しています。
- ✧ 3,700万人(25,000人以上のArcelorMittal従業員を含む)が生活し、飲料水、レクリエーション、および食料供給源を五大湖にたよっています。



ケース・スタディーとエクササイズーLafarge

モジュール1: 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

ビジネスとしての価値の創出—Lafarge

課題

影響度を緩和(ミティゲート)し、生物多様性を回復します。採取産業にとって重要なステップです。

- ✧ Lafargeは資源採取および建築資材の事業を展開するフランスのグループ企業です。
- ✧ 世界中で、特に発展途上国で事業を展開しています。
- ✧ 土壌の除去や生息地の破壊など、影響を与える可能性がいくつかあります。
- ✧ 企業の評判を上げ、鉱業が受け入れられるために、影響度を管理、緩和(ミティゲート)します。



ケース・スタディーとエクササイズ—BASF

モジュール1: 生態系サービスとビジネスの関係性の理解



wbcasd business ecosystems training

ビジネスとしての価値の創出—BASF

課題

BASFは世界有数の化学会社です。

作物保護事業の運営により、持続可能な農業を向上させようと農業従事者と協力しています。

- ✧ BASFは、生態系の機能が農業にとって、および自社の顧客である農業従事者にとって重要であることを認識しています。
- ✧ 競争力のある農業は、社会に受け入れられるために、生物多様性と両立する必要があるという意識を持っています。



ビジネスのリスクとチャンス

タイプ	リスク	チャンス
操業		
規制・法律		
世評		
市場・製品		
財務		



ビジネスとしての価値の創出—ArcelorMittal

課題

水への依存度

五大湖流域における
ArcelorMittal所有の事業

- ✧ 五大湖周辺
米国およびカナダにわたる
9つの施設
- ✧ 鉄と石炭に次いで、水が
製鋼工程において最も重要な構成要素です。
 - 1トンの鋼鉄あたり13,000～23,000ガロンの水。
- ✧ 製造原材料の輸送や製品流通でも五大湖に依存しています。
- ✧ 3,700万人(25,000人以上のArcelorMittal従業員を含む)が生活し、飲料水、レクリエーション、および食料供給源を五大湖にたよっています。



ビジネスとしての価値の創出—ArcelorMittal

対応

「Sustain Our Great Lakes」パブリックプライベートパートナーシップ

- ✧ 2007年、ArcelorMittalは、米国魚類野生生物基金、米国環境保護省、米国野生動物庁、米国森林局、米国海洋大気庁との共同プロジェクトを行いました。
- ✧ 共同による生態系の回復。各協力団体が、協力の下に、資源を活用し、地域の経済活力および生活の質の面での五大湖の重要性、および生態系のニーズと優先順位について意思決定者に対して啓発活動をし、実行可能な行動を明確化します。
- ✧ 「Sustain Our Great Lakes」プログラムの狙いは、流域の生態学的な完全性の回復にあります。財務面での利点は、以下のとおりです。
 - 環境への取り組み能力を向上し、協力を拡大します。
 - NGOが現地で回復目標に対する影響力を持つようになることで、五大湖全体の健全性を高めます。



ArcelorMittalのケース・スタディー

「Sustain our Great Lakes」の重要問題ごとのプロジェクト実施場所(2006～2010)

2006年から2010年までの間、プログラムは五大湖周辺の8州およびカナダの2州すべてにわたるプロジェクトに対し、103件の助成金を支給しました。

103件のうち9件を除き、助成金はすべて、重要問題の1つ以上のカテゴリに直接取り組んでいました。



注: 複数の重要問題に取り組んでいるプロジェクトは「複合」で示しています。重要問題のいずれにも該当しないプロジェクトは「その他」で示しています。



ビジネスとしての価値の創出—ArcelorMittal(続き)

結果

同じ目的に対するさまざまなプロジェクト: 生物多様性の保護

- ✧ パブリックプライベートパートナーシップ(PPP)のモデル
- ✧ 助成金の出資比率は2対1
- ✧ 2006年以来、保護投資における103件の助成金は合計2,900万米ドル(1,210万米ドルはパートナーシップにより調達、1,690万米ドルはマッチングファンドにより調達)
- ✧ 五大湖回復イニシアティブの実施を支援。流域の生態系の保護、維持、回復を行うように企画。
- ✧ 長期的には、ArcelorMittalがこれらのプロジェクトに関与することにより、その信頼性が示され、五大湖地域での事業許可を確かなものにしていきます。



ビジネスとしての価値の創出—Lafarge

課題

影響度を緩和(ミティゲート)し、生物多様性を回復します。採取産業にとって重要なステップです。

- ✧ Lafargeは資源採取および建築資材の事業を展開するフランスのグループ企業です。
- ✧ 世界中で、特に発展途上国で事業を展開しています。
- ✧ 土壌の除去や生息地の破壊など、影響を与える可能性がいくつかあります。
- ✧ 企業の評判および鉱業の受容に関し、影響度の管理と緩和(ミティゲート)は、大きく影響します。



ビジネスとしての価値の創出—Lafarge

対応

生物多様性回復の一環として苗木を植樹

- ✧ Lafargeは、ツールやベストプラクティスなどの、生物多様性管理システムを開発しました。
- ✧ 植物によって、土壌が安定し状況(ランドスケープ)が完成するので、地域の苗床は、リハビリテーションの重要な機能です。地域の苗床は、その土地固有の種、地域の生物地理学的環境への適応を尊重し、侵入生物種の拡大を回避します。
- ✧ ウガンダとフィリピンでの具体的なリハビリテーションプログラム。栄養繁殖用の種子および原料を採石場の近辺に直接集めます。
- ✧ 最適な種を選び、植え付けと手入れの手順を策定するうえで、地域のノウハウが、重要な役割を果たしています。植物学の権威との協力がプロセスの最終段階です。



ビジネスとしての価値の創出—Lafarge（続き）

結果

同じ目的に対するさまざまなプロジェクト：生物多様性の保護

- ✧ ウガンダでは、苗床の年間生産能力は苗木100,000本です。
- ✧ 30,000～50,000本の苗木が代替燃料栽培場で使用され、12,000～15,000本の苗木が鉱石跡地のリハビリテーションに使用されています。
- ✧ 地域のコミュニティは30,000～50,000本を受け取ります。苗床プロジェクトでは、30人以上を雇用します。
- ✧ これらの行動は、Lafargeが元の採石場のリハビリテーションを行うのに役立つ一方、同社がこの地域での操業を確保するのにも役立っています。



ビジネスとしての価値の創出—BASF

課題

BASFは世界有数の化学会社です。

作物保護事業の運営により、持続可能な農業を向上させようと農業従事者と協力しています。

- ✧ BASFは、生態系の機能が農業にとっても、自社の顧客である農業従事者にとっても、重要であることを認識しています。
- ✧ 競争力のある農業には、社会に受け入れられるために、生物多様性と両立する必要があるという意識を持っています。



ビジネスとしての価値の創出—BASF

対応

BASFは3つの異なるプロジェクトを実施しました。

✧ プロジェクト1—生物多様性を改善する方法の試行(英国):

営利農場と提携し、農業野生生物諮問グループおよび英国王立鳥類保護協会(RSPB)が推奨する新しい生物多様性方法を実施し、監視しました。

✧ プロジェクト2—より持続可能性のある農業を目指した植林(ブラジル):

農業地域の啓発活動、生物多様性の回復および保護に向けた行動。地域の組織と提携し、約300ヘクタールにわたって50万本以上のブラジル固有の木を植えました。

✧ プロジェクト3—ミツバチの保護と保全(フランス):

ミツバチなどの花粉媒介昆虫の死亡率の上昇は、農業に直接影響を与えます。フランスの「ミツバチのための生物多様性ネットワーク」と提携し、フランスのミツバチおよび他の花粉媒介者を保護に取り組んでいます。毎年2,500ヘクタール以上の特別な「ミツバチ草地」を設けています。



ビジネスとしての価値の創出—BASF

結果

3つの異なる方法

—在来種への生息地と食料の提供、森林再生、および教育プログラム

期待される結果：

- ✧ 最新の登録農薬および適正な農業が生物多様性と両立することを示します。
- ✧ 農業と両立する解決策を提供することで、農業従事者との関係を改善し強化します。
- ✧ 農業ソリューションのプロバイダーとして、農業分野とBASF(が活動する)業界に対する評判を高めます。



質問・意見・感想



まとめ

モジュール1: ビジネスと生態系の関係性の理解



wbcSD business ecosystems training

モジュール1の目的—おさらい

- ❖ 生物多様性、生態系、生態系サービス、環境、および持続可能性を中心にした主要な用語およびコンセプトについての理解度を促すべく明確に説明。
- ❖ 生物多様性および生態系の変化と影響度の直接および間接的な要因と原因、生態系サービスに対する企業の影響度と依存度を明確化。
- ❖ 生態系サービスと幅広い持続可能性の課題の関係性について理解の促進。
- ❖ リスクとチャンスの両方の視点から、生態系を管理するためのビジネス事例について説明し、自社にとっての特定のビジネス事例を明確化。
- ❖ 現在(生態系の)変化の主要な要因とされている規制と方針の基本的な枠組みの一部について理解を深める(モジュール4で詳細に説明)。
- ❖ 研修受講者が組織に価値を付加するのに役立つ知識を獲得できるようにする。



モジュール1

- ✧ 基本事項の理解 ✓
- ✧ 変化の要因、ビジネスの影響度と依存度 ✓
- ✧ 持続可能性との関係 ✓
- ✧ 行動のためのビジネス事例 ✓
- ✧ 政策と規制の枠組み ✓
- ✧ 有益な知識の獲得 ✓



復習

目的を達成しましたか？



行動計画

生態系サービスが自社の状況にどのように関係しているかを明確化しましょう。



参考文献

- ✧ WBCSD WBCSDLレポート『Connecting the Dots』プレゼンテーション
- ✧ WBCSD 『Corporate Ecosystem Services Review』(企業のための生態系. サービス評価(ESR))
ESR日本語訳: http://www.hitachi-chem.co.jp/japanese/csr/report_esr.html
- ✧ WBCSD 『Responding to the Biodiversity Challenge: Business contributions to the Convention on Biological Diversity』—<http://www.wbcsd.org/work-program/ecosystems/ecosystems-training-tools.aspx>
- ✧ WBCSD 『Vision 2050』
- ✧ WBCSD 『Pathways to 2050』
- ✧ 『ミレニアム生態系評価』、2005 『Ecosystems and Human Well-being: Opportunities and Challenges for Business and Industry』—<http://www.maweb.org/documents/document.353.aspx.pdf>
- ✧ 『ミレニアム生態系評価』、2005 『Ecosystems and Human Well-being: Synthesis』
—<http://www.maweb.org/documents/document.356.aspx.pdf>
- ✧ 国連 『Millennium development goals』—<http://www.un.org/millenniumgoals/bkgd.shtml>
- ✧ TEEB(生態系と生物多様性の経済学)—<http://www.teebweb.org/>
TEEB 日本語仮訳 <http://www.iges.or.jp/jp/news/topic/1103teeb.html>
- ✧ 『TEEB for business』—
<http://www.teebweb.org/Portals/25/Documents/TEEB%20for%20Business/TEEB%20for%20Bus%20Exec%20English.pdf>
- ✧ ブルントラント報告書の成果—<http://www.un-documents.net/ocf-02.htm#>
- ✧ 『Brundtland report, 20 years on』—
http://www.un.org/esa/sustdev/csd/csd15/media/backgrounder_brundtland.pdf



参考文献(続き)

「方針の枠組み」の章:

- ✧ CITES—<http://www.cites.org/>
- ✧ 植物の例—<http://www.cites.org/common/prog/african-cherry/11-CUNNINGHAM.pdf>
- ✧ ワニ革の例—<http://www.doc.govt.nz/upload/documents/about-doc/role/international/cites-crocs.pdf>
- ✧ UK Environmental Law Associationの手引き—<http://www.environmentlaw.org.uk/rte.asp?id=108>
- ✧ 成長の限界—<http://www.clubofrome.org/?p=326>
- ✧ 国連「地球サミット」のファクトシート—<http://www.un.org/geninfo/bp/enviro.html>
- ✧ CBD—<http://www.cbd.int/2010-target/goals-targets.shtml>



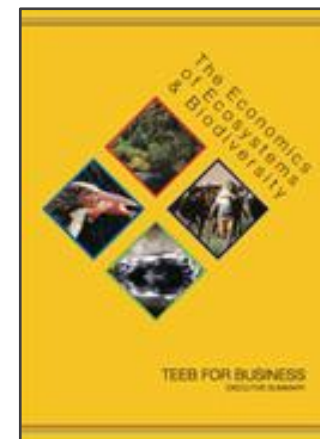
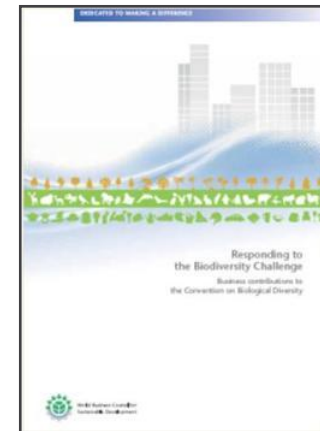
BET:生態系サービスとビジネスの関係性の理解 行動計画

ステップ1: 認識

- ✧ 自社内で、または他社との提携における業界イニシアティブとして、BETの使用を検討しましょう

ステップ2: 公的に利用可能な他のリソースの使用

- ✧ 以下のWBCSDのケース・スタディー例および出版物を検討します。
 - ケース・スタディー: 16か国および15分野から28以上の例が公表されており、特定の企業が実施した「企業のための生態系評価(CEV)」のロードスター事例も含まれます。
 - 出版物:
 - Guide to Corporate Ecosystem Valuation*
 - Corporate Ecosystem Valuation: Building the Business Case*
 - The Corporate ESR*
 - Responding to the Biodiversity Challenge*
 - Connecting the Dots: The nexus between business & ecosystems*
- ✧ その他の主要な情報源: 生態系と生物多様性の経済学(TEEB)報告
特に以下:
 - TEEB for business
 - ミレニアム生態系評価
 - UK National Ecosystem Assessment (英国生態系評価)



BET:生態系サービスとビジネスの関係性の理解 行動計画

ステップ3: ネットワークへの参加と専門家との連絡

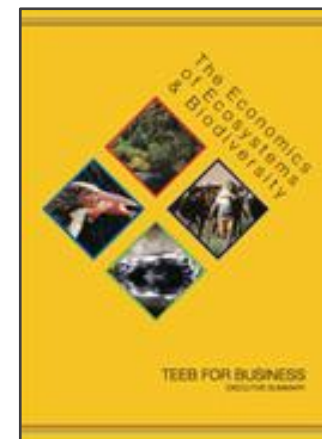
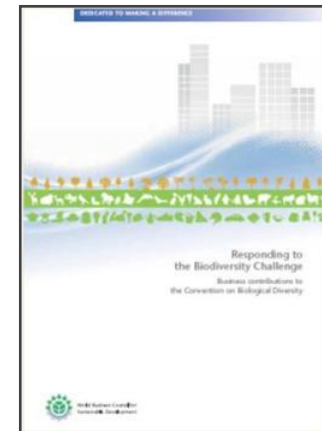
- ✧ WBCSD Ecosystems Focus Area (WBCSD生態系フォーカスエリア)への参加を検討しましょう
(<http://www.wbcd.org/work-program/ecosystems.aspx>)
- ✧ WRIのEcosystem Services Experts Directory (生態系専門家ディレクトリ)を利用しましょう(<http://projects.wri.org/ecosystems/experts>)

ステップ4: 試験的实施

- ✧ 生物多様性のリスクとチャンスの内部評価を試験的に実施しましょう
- ✧ 選択したプロジェクト、場所、またはサプライチェーンの段階に対して、「企業のための生態系評価(CEV)」または「企業のための生態系サービス評価(ESR)」を試験的に実施しましょう

ステップ5: 実施

- ✧ WBCSD生態系フォーカスエリアチームと連絡を取り、国際的専門家と協力して完全な実施戦略の計画を立てましょう



免責事項

ビジネス・エコシステム・トレーニング (Business Ecosystems Training: BET) は、WBCSDから発行された学習プログラムです。KPMGの事務局やシニア・エグゼクティブをはじめ、メンバー企業、リージョナル・ネットワーク・パートナー、NGO、国連、学術機関などから構成されるアドバイザリー委員会のメンバーの共同努力により作成されています。さまざまなメンバーが草案を検討した結果、BETは広くWBCSDメンバーの大多数の総意を表しています。しかし、すべてのメンバー企業があらゆる点で合意しているわけではありません。

ビジネス・エコシステム・トレーニング (Business Ecosystems Training: BET) は学習のみを目的として用意されており、専門家のアドバイスという主旨ではありません。特定の専門家からのアドバイスを得ずに、BETの情報のみに基づいて行動しないでください。BETの情報およびその他言語での翻訳の正確性や完全性については、(明示的、暗示的に) 何ら表明されるものでなく、保証されるものでもありません。研修受講者をはじめ他のすべての人々が、この研修プログラムに記載されている情報によって起こした行動、または行動の自制によりもたらされるあらゆる結果やそれに基づく決定に対し、WBCSD、KPMG、アドバイザリー委員会、そのメンバー、従業員、および政府職員は、法律の許す範囲で一切の義務、責任、および注意義務を負いません。

英語版 発行月 2012年2月 (日本語版 発行月 2012年7月)

(英語原文)

Business Ecosystems Training (BET) is a capacity building program released in the name of the WBCSD. It is the result of a collaborative effort by members of the secretariat and senior executives from KPMG and an Advisory Committee composed of member companies, Regional Network partners, NGOs, UN and academic institutions, and others. A wide range of members reviewed drafts, thereby ensuring that BET broadly represents the majority of the WBCSD membership. It does not mean, however, that every member company agrees with every word.

Business Ecosystems Training (BET) has been prepared for capacity building only, and does not constitute professional advice. You should not act upon the information contained in BET without obtaining specific professional advice. No representation or warranty (express or implied) is given as to the accuracy or completeness of the information contained in BET and its translations in different languages, and, to the extent permitted by law, WBCSD, KPMG, members of the Advisory Committee, their members, employees and agents do not accept or assume any liability, responsibility or duty of care for any consequences of you or anyone else acting, or refraining to act, in reliance on the information contained in this capacity building program or for any decision based on it.

Copyright © World Business Council for Sustainable Development





wbcasd business ecosystems training